

神様がくれた神通力
坂下進一



はじめに

私の少年期は毎日が病氣との戦いでした。来る日も来る日も体調が悪く、医者通いの日々が続いたのです。時には学校を早退したり、また休んでしまったりの日々が続きました。それは思春期の時が第一のヤマだった様な気がします。今振り返ってみるとそれは靈障害の始まりだったのです。親父に連れられて名のある医院を転々としましたが、いつこうに調子が良くなり、困っていました。いろんなことを試してみましたが何をしても良くならず、残るは神頼みだけだったのです。神頼みといっても、我が家では正月と月初めの家神と氏神様のお飾りやお祭り、そして盆彼岸の先祖供養以外には、これといって信じる神様があるわけでもありません。しかし両親も私も見えない宗教的なことに手を出すのが大嫌いだったので、そのままだったのです。おそらく当時宗教に興味があつたなら、助かりたい一心で今で言う新興宗教などにどっぷり浸かっていたことでしょう。

そんな中で特につらかったことは体の不調のためにいろいろな試験が困難になり、時には受けられなかったという事。それにいつも明るく振る舞っているせいか調子が悪いのを誰にも信じてもらえなかったということでした。

どれほど健康な人をうらやましく思ったことでしょうか。毎日とはがゆい思いをしていました。

学校での期末試験、入学試験、入社試験、国家試験、昇段試験、会社内での昇格試験等という
いろいろな試験がありますが、みんな全てにそれぞれ大変だった嫌な思い出があるのです。

例えば会社内での昇格試験を例に取ってみると、その試験の日にスムーズに試験場へ体が出
向くという事ありませんでした。まず当日の朝具合が悪くなり、その日の不調は消化器系統
だが特に下痢がひどいのです。試験場へ着けばそこでも具合が悪い。しかし試験の日は前も
って連絡されているので休むわけにはいかず仕方のないことなのです。

どの試験もそうですが、特に春先と秋に行われるものにはつらいものがありました。いざ試
験が始まってみると今度は動悸がして全然回答するどころではないのです。試験という試験は
あらゆる方法で体調不良の思い出があるのです。試験の当日こんなに調子が悪いのでは精神的
な面ではないかと言われそうですが、実は試験のための勉強をしても自宅で調子が悪くな
ってしまうので困ったものです。

ある時は歯が痛くて、又ある時は頭痛、そしてある時は下痢、めまいとあらゆる不調で試験
に向かつていくことができなかったのです。下痢といってもはんばじゃないのです。

一度下痢になると一ヶ月も続くのです。よく友達や先輩達に私が体調不良を訴えると精密検
査をやったらか、気が弱いんじゃないかとのアドバイスをもらうことがあります。

しかし私はこんな時、すぐに霊障だとわかるので他人に何の返答も出来ず「早く良くなつて

ほしいものですよ」と言うだけです。私の体は特に霊媒体質であり、靈感体質、そして憑依体質なのです。この事は子供の頃から誰にも言えなかったため、なおさらはがゆい思いをしてきたのです。以前はこの様な試験の時は偶然調子が悪くなるのかと思い、そのままにしていたほどでした。

結局この試験を受けても無意味だということで潜在意識の中で守護霊が警告をしていたのでしよう。なぜなら試験を受けてその道に入らず、こちらの道を進んで来いということなのです。

たしかに私も人間ですから色々なものに興味をもっていました。でも興味をもっているものに深く入れば入るほどやつてはならないものであると体調を通して警告してきたのです。いわば霊障として体に現れてしまうのです。最近では趣味である好きな写真を撮っても、あまり深入りすると体調をこわし警告してくるのです。また空手をやっていて気候がよくなり昇段試験を受けようとトレーニングに入ると、今度は体調がくずれて警告となり霊障を受けるのです。ところがこんなことは他人には相談できないため毎日困ってしまうのです。時には調子が悪くなり病院を訪れて、あらゆる検査を受けるのです。しかし検査の結果はほとんど異常がなく、せいぜい胃炎程度なのです。

子供の頃（昭和三十五年頃）あまり不調なので、すでにレントゲンに向かいバリウムを飲んで

で検査をしていた事もあったのです。あの頃は今ほど素晴らしいレントゲンの機械ではありません。後からX線を投射して私の腹の前にあるスリ硝子みたいなものを医者が眺めているというものです。

七年ほど前にも一度ひどい事があったのです。それは帰宅途中の車内で運転ができなくなるほど頭が重くなり、めまいが起きて不調に落ち入ったのです。その後七軒もの病院を回ったのですが全ての病院で風邪であると言われ、私はそれでも風邪の症状とは明らかに違うので精密検査を希望したのです。しかしあらゆる検査の結果どこにも異常がなく、最後にはめまいのために訪れた病院で、胃炎を起こしているとの処方で胃の薬をもらって帰って来るといいます。

どういうわけか霊媒体質の人ほど少年期などに不運な人生を送り、いろいろな障害を経験してきたという人の話を耳にしますが、私もそんな霊媒体質であつたせいかな、今までに体調不良と同様に不思議なことが数え切れないほどの身の回りにありました。

まずは神仏に関した計画を立てた時などは、いくら前日の天候が悪くても、その日には必ず晴れてくれるというジンクスもあるほどです。

そんな今眠っている九〇パーセントほどの潜在意識は私の心をゆさぶるかの様に、霊媒体質、靈感体質、そして憑依体質であつた私の少年の頃からの身の回りに不思議な不可解な事件や奇

跡を多く発生させていたのです。それはまるで神業のごとく潜在意識の中で守護霊が語りかけてきたのです。時には宗教団体から声をかけられ、入会を勧められたことも何度かありました。

しかし私自身の心が、宗教というものを受け入れることが出来ないため、断り続けてきたのも事実でした。

これから私がお話したい事は、この否定出来ない事実は私に神秘的な力として降り注ぎ、時として助けられたり知らされたり、また教えられたりしているため私なりに解釈分析をし、神からもらった贈り物として「神様がくれた神通力」と題してこの本を発行することとしました。

著者

神様がくれた神通力―目次

はじめに

第一章 予知の能力

- 一 予知能力を身につけ三つの道を選択する
- 二 共通性の発見で目覚めよ

第二章 神々が教える不思議な出来事

- 一 氣功に学ぶ
- 二 氣功で母の命を救った
- 三 久保田君のおじいさんが空に浮かんでいる
- 四 人の亡くなる知らせ
- 五 飛行機事故なぜ大澤さん危険な方へ
- 六 初めての透視
- 七 まぼろしの交通事故
- 八 守護霊と霊障害

九.幽霊との遭遇

十.胆のうがんに直った

十一.いん石の目撃

十二.匂いから感じるもの

第二章 神様からの語りかけ

一.神様の声が聞こえた

二.サボテンのパワー

三.神様が降りるー神様からもらった名前・福寿帰命

四.神社に咲いたうどんげの花とろうそく

第四章 迷信と科学の狭間

一.水の迷信を科学する

二.足の神様・足尾山様

第五章 潜在意識の開花法

- 一. 趣味と起動修正
- 二. ダビデの星
- 三. パワーストーン
- 四. 霊夢から得るもの
- 五. ギャンブルへの働きかけ

おわりに

第一章 予知の能力

予知能力を身に付け三つの道の選択をする

一・一

私は口ぐせの様に会う人にいつもこんな事を言っています。今の人間は本来持っている能力を忘れてしまい、新しいものばかりに目を向け生活をしている。このため目覚めていない潜在意識を有効に利用できず埋もれたままとなっているのです。同時に顕在意識の進化の軌道がずれているのさえ気付かず生活をしているといえます。

人類は今世界各国で起きている戦争、天変地変や自然がもたらす悪影響を受けながら生活しています。とくに世紀末に向かいバブル崩壊後の経済悪化や社会情勢の変化、そして増え続ける不可解な事件や事故、また追いつきをかけるかの様な一流会社の再三の不幸事の発覚、等後を絶たない状態です。

そこで私の言いたい事は自分の事くらいは自分自身で知れ、予知能力を身につけ「感知せよ」ということです。

今ここにあなたの日常生活を映し出している映画があると仮定します。現在ではVTRやDISKが出回っているのです、たとえば古くなるが理解しやすい事から映画にたとえて記してみ

る事にします。この映画は宇宙のエネルギーのもとで、ある法則にそって作られた精巧の映画であり、すでに我々の一生がプログラムとしてインプットされているものです。

ところが我々は潜在的にこの放映される以前のフィルムを手に取り、前もって見ることできる意識（潜在意識）を誰もが持ち合わせているのです。この意識こそ開発させる必要があります、また眠らせておくのがもつたいない話です。この放映される前のフィルムをあなたは手に取って見ることが出来るのです。

明日は何をやっているのか、あさっては何をやっているのか、昨日は何をやってきたのか、良い事も悪い事も全てを見る事が不可能ではないのです。そこでもし未来の情報の入力されている放映される前のフィルムを前もって見て、自分の身に危険がせまっていたり、またいく日か後には事故に合っていたとかを見ることができれば、少なくとも自分自身の予知の能力で軌道を修正する事が出来るはずなのです。そこで事故に遭っている部分のフィルムを切り取ってしまい、後の部分とつなぎ合わせ修正しておけば良いのです。そうすることにより、後日放映された映画は何の心配もなく映し出されていく事でしょう。

また自分の進むべき道としていちばんわかりやすいのが病気です。人間の持つ約六十兆ともいわれる細胞が少しずつむしばまれていく様を見てみても、「大きな地球をとりまく宇宙のエネルギーと我々の体とのミスマッチングにより発病させられている」と言っても過言ではな

いと言えます。

脳卒中、ガン、心臓病、アルツハイマー、さらにはエイズや高血圧、糖尿病、精神病と様々です。我々が目を付けなくてはいけないところは、このミスマッチングの部分と言えます。科学的に言える事とは病気が語るように結果論から追求すると、塩分や糖分の取り過ぎ、運動不足、動物性脂肪の取り過ぎ、肥満、そしてすこし見方を変えてみると疲労、睡眠不足、発ガン性物質の摂取、ビタミン不足などさらには予防出来る病気もあるのが事実です。

ところが私の言いたいことはこれからです。まず遺伝、慢性霊障、原因不明、この様なことを聞くと予防しようと考えてしまい、一歩尻込みをする様な感じを受けてしまいます。病気によっては、すでにDNAが持ち合わせているために遺伝などという形で共存生活を余儀なくされる場合もあるのです。この私達が直接手をくだすことができない部分を解明することにより、病気はもちろんのこと、前向きな明るい人生への出発地点を見つけ出すことができ、この部分での放映される以前のフィルムを手に取り見てみる必要があるのです。

また我々が生活するうえにおいて、いろいろと浮き沈みの波はありますが、病気にたとえて言うのなら以上の様な事が言えますが、潜在意識を開発させる事により、選ぶべき三つの道があるのに気付いて欲しいのです。

まず最初の道は砂利道です。この道を時には歩き、時には走り、また時には車で走るが、ご存じのように歩いてても車で走っても、歩きにくいし運転しにくい。道端の歩行者も気になり、乾燥すればほこりがたち、雨が降れば水たまりもできる。またその水をはねれば他人にも迷惑をかけ、はねられれば汚れる、そしてはねた人は怒られる。時には車でハンドルもとられる事もある。こんな道は誰もが好んで歩こうとも走ろうともしないでしょう。

しかし出発前に第二の舗装された道が同一方向にもう一つあるならば、当然あなたはこの舗装された安全で歩きやすい道を選ぶでしょう。もちろん舗装された道でも大なり小なり水たまりや整備不良の個所があるが、しかし我々は気付かないうちに自然の法則にしたがってこの砂利道と舗装された道を歩き走り、目的地へと向かっているのです。

ところがここでもう一つの道、すなわち第三の道、ジュウタンの道があるといったらおそらくびつくりされることでしょう。世の中には自分では気付かないうちにジュウタンの道を歩いている人がいるのです。その道ではスーパーマンのような存在かもしれないが、選ぶと選ばざるとにかかわらず気が付いたらジュウタンの道を歩いていたという人もいるのです。ある人はスポーツ界で、ある人は政界で、またある人は芸能界で事業の繁栄で・・・といった事がいえます。こんな人は得てして生活運が良く、金運が良く、人脈もあり、健康に恵まれて幸せな生活をしているというのが多いのも事実です。中には金運には恵まれていても、どうも健康運が

ないという、ジュウタンの道を歩いていても時々砂利道が現れてくるという人もいるのです。今あなたが砂利道を歩いていたり、又舗装された道を進んで行こうとしているならば心を大きく、第三のジュウタンの道を意識し、進んでいくよう努力する必要があります。知らない間に自分に与えられた法則にしたがっているのであれば、この法則の軌道修正をする必要があります。それにはまず自分自身の潜在意識（超意識）を目覚めさせ、今まで眠っていた意識に油を注いで進んでいくしかないのです。あるいは何も信じないで砂利道を歩いていて、病気になったら薬をのみ、またある時は外科的手術をうけ、顕在意識のままに自ずらの寿命を全うするしかないのです。

現代の科学や医学は人間が作ったものです。従って病気になれば、まず医者に行くのは当り前のことです。アメリカやロシアでは、すでに科学を越えた研究に着手しているが、日本ではまだ迷信化されているのが数多く、科学的根拠のないものには手が下されていないのが実態です。我々も自然にかえり、一人でも多くの人が放映される前のフィルムを手に取り、第三のジュウタンの道を歩いていける様理解し、努力して進んで行けたらと願うものです。

共通性の発見で目覚めよ

一・二

時々こんなことを耳にすることがあります。出かける直前にドライヤーとか電気コタツやエアコンなどを使用して、その後出かけた直後に先ほど使った電気のプラグを抜かないで出かけて来たのでは、またスイッチを切らなかつたのではとか、出先の途中で心配することがあると思います。その時「まあ出かけて間もないから火事にでもなったら大変」と思い、急いで引き返すことがあります。そこで家に戻り先ほど使用していた電気製品を見るとちゃんとコンセントからプラグが抜けており、また電源も切られていました。そして特に異常は無いことがあります。心理学等を研究している人はすでにおわかりでしょうが、こんな時はえてして何かの忘れ物をしていると言われます。事実私は何回となくこんな経験をしているのです。

私の身体は便利な様で便利でないという、ちよつと変わった体質だということに気が付いた。出かける前とか、車に乗ってある目的地へ向かっている時のことです。時々出かける直前になつて下腹が痛くなり下痢をすることがあるのです。時には家で、時には車で走つていてもよおすことがあるのです。こんな時はあわてて公園のトイレなどに飛び込むこともあるのです。しかしこんな時に限って訪ねた相手先の人が不在だったり、合うことができないという事に気がついたので。体はすでに出かける前から相手が不在なのを感知しているかの様です。

私の住む群馬県の太田市でもこんなことがあります。それは毎月の八日になると雨が降るのです。となりの伊勢崎市や桐生市で雨が降っていないくも、この様なことが起こります。たとえば一日中雨にみまわれなくても、二、三分雨がぱらつくということもあります。この日はかりに大雨が降らなくても天気はどんよりとしていることが多いのです。このことから屋外での催し物をしたり、いろいろな行事の計画をし、雨に降られては困る時にはあえて八日という日を外して予定を組むことがあります。

ギャンブルをする人がよくゲンをかつぐと言いますが、同一のことを毎回変えずに行うようにして、勝利に結び付けようとしている場合が多いのも、共通性を潜在的に見つけ出しているのかもしれません。プロ野球のある監督が試合に勝つと、その時はいていた同じパンツをはいて次の試合に臨むという話を聞きますが納得のいく事です。例をあげてみると沢山ありますが、例えばある色のものを着て行くとうまく商談がまとまるとか、ある曜日になるとよく夫婦げんかをする。あの人に合うと必ず嫌なことが起こるとか、またあの場所へ行くとなぜかすつきりとして気分が良くなるとか、この種の事は誰もが感じていると思います。

私のところへ相談に来る人も不思議と共通性があります。今週は体の弱い人が多いなと思うと、今月は南の方から来る人ばかりだとか、時には恋愛の相談が一、二週間集中したりと様々です。

特に前記した様にギャンブルをやる人、株を研究する人、スポーツ選手などは、すでに自分の手の内で応用している人が多いと言えます。この様な共通性を見つけ出すことも我々の日常生活のほんの一部分ではあると思いますが、このことに気がつく事により、見えない未来を見ることができるようなのです。

このような共通性の発見には何事に関しても興味を持ち、注意して日常の生活を見守ることが必要なのです。それには日記みたいなものを毎日書き続けることも必要だと思われます。日記をつけることにより思わぬ発見をすることもあるのです。月別、曜日別、時間別、方位別、内容別など様々な視点から物事をとらえることにより、共通性を見つけ出すことができるかと思えます。最初があつて終わりがある。生があつて死がある。一度生まれたものはまた元の位置に戻る。このことから我々を取り囲む世の中は、一つのリズム（サイクル）があると考えられます。従つて人間や動物、物質、時間や条件などの個々のリズムをつかむことが必要となってくるのです。諸条件のリズムの一致するところをとらえ、我々の日々の共通性を知ることになるのです。

第二章

神々が教える 不思議な出来事

気功に学ぶ

二・一

五年ほど前から縁あって気功を学び体験することができたのです。地元の機関誌に募集の案内があったのを見て、どうしても一度は経験してみたいという一心で、人数制限に漏れては大変と思い、早朝会場に車で乗りつけ長い時間待った記憶があります。さいわい申込み人数の中に入り受講することができたのです。いざ講習会が始まってみると興味があり面白いものでした。

講師は地元の村松先生でお会いしたところ確かに気功にふさわしく気の力がピリピリ感じられる人でした。人柄のせいか、こころよく気を取り入れ教えて頂くことができたのです。

講習の期間はたったの二ヶ月ちよつとでしたが、その時私を感じ取れたことは、気功は目に見えない力だけと思つたら、そうではなかったのです。まず気とは目で見ることができるのです。ちようどお湯が湧いて湯気が出るようなもので、先生の手から顔から体から白く、だいいに、うす紫に出ているのが感じられるのです。これを経験した私はオーラを思い出したので

す。気とは手から出ているオーラの一種であると感じてきたのです。

しかしここは気功の講習会であるため、気として話を進めなくてはなりません。良く見える日もあれば全然見えない日もあるのです。気と接しているうちに他人の気が自分との気の間に何か目に見えない影響を与えているということに気が付いてきたのです。

今日はあの人はいつもより強く気を発していると感じてても、その強い気が見えないことがあるのです。これはどうやら気を受ける方の立場（私自身）の気の持ち方もある様です。

このことから気功を学んでいくのには自分の気も高めておく必要があるということが分かったのです。

そして今度は味があるのにはびっくりしました。私が気を味わったというのはこんな感じでした。子供の頃、乾電池の電圧があるかどうか電極をなめたことがあったのです。

プラモデルなどを完成させ、スイッチを入れ、いざ動き出すかという時になかなか動かないことがよくあったのです。その頃はテスターなどはまだ高価な測定機だったのです。

そこでよくやったのが電池の電圧があるかどうかプラスとマイナスの電極を同時になめたものです。すると電圧のある乾電池はピリッとし、「まだ使える」と子供ながらに判断したものでした。この乾電池と同じようにその時舌にピリッと電気みたいのを感じたのを覚えています。気の味とはちょうどそんなものでした。

また匂いもあります。先生の放つ気をともに受け匂いを嗅いでみたのですが、その時は以前に北海道の土産で花の香りのする甘い匂いのハスカップというのを買ったことがあります。ちょうどそのハスカップという香りに似ているなあと感じたものでした。その後毎朝一人で行う気の取り入れの時に何回もお香の香りを嗅ぐことがあります。

後になってこれが気の匂いだということに気が付いたのです。この不思議さは気を受けた人でないと経験できないことかと思います。手のひらの指だけに感じられる気、小指だけに感じられる気など様々経験しましたが、胃に気を受けた時は気持ち悪いくらいに胃袋が上に動いたのを覚えています。この気功も念力などと同じく潜在意識の働きかけによる超能力のたぐいのものであるという確信を持ちました。

特に私のように病気の人が相談されてきた時は、この気功を有効的に利用することにより天のエネルギー、地のエネルギー、そして人のエネルギーを操り、時には邪気なるものを排出し、また時にはパワーのある気を体内に吸収できるように完成に近づけたいと思ったほどです。でも今では私が相談にこられた人にその気を送り、また教わった方法を教えてやることにより、すでに受けた本人が子供の夜泣きを直したり家族の体の痛みを和らげると言ったものを利用してのことです。私が気功を覚えたために、そのパワーを他人に送り、その人が病気等の治療に役立てているのを非常に有り難く思ったのです。

また氣に關することではこんなことも試みたのです。ある日のこと私の教えている空手の道場で氣功を利用した実験をしたのです。二十人もの子供たちに、糸で五円玉をつるし、氣を使つて手で触らずに、その五円玉を動かすというものでした。私自身毎日毎日来る日も来る日も練習し、五円玉が動いたのが練習を初めて二ヶ月を過ぎた時でした。しかし子供たちに同一の事をやらせたら、たつたの二回（一回が二十分程度）の練習でなんと二人の子供がその吊された五円玉を、両手で操り何なく動かしてしまふではないですか。疑いを持つ大人に対して純粹な氣持ちの子供は一心に氣を放出できたのでしょうか。

それ以来私は氣が出やすい水「磁化水」をつくり毎朝飲み氣功を行っているのです。毎朝の氣功に多少の變化はありますが、いつも心得て天地人と氣を大きく取り入れ邪氣なるものは放出するようにしているのです。潜在意識を働かせるためには取り入れやすい方法かと思われま

す。

その氣を最も高め放出させるための方法としては、風呂に入つた状態で練習してみるとよいでしょう。まず少しぬるめの風呂に入ります。温度は三十八度から四〇度位がよいと思われます。あくまでも私自身の場合で進めていきますが、その風呂にゆつくりと十五分ほど浸かるのです。静かに腹式呼吸をし、心を落ち着かせます。そして両手を自分の前の湯面に上げ合掌の形を取るのです。静かに合掌している手を離していくと、両手は磁石で引っ張られているか

の様になり、引き合うのが感じられるでしょう。次の瞬間今度はその両手を近づかせるのです。すると今度は磁石で反発し合う様に圧力を感じることができるよう。

この様なことを繰り返すことにより、手のひらが熱くなりジーンとしてくるのがわかる様になります。手のひらが熱くなっても気を感じ続けるのです。

こうすることにより、気が高められるのです。気を感じることができるようになったら、風呂場だけでなく、いつでもどこでも気を感じる訓練をすることにより、より高い気を放出することができるようになります。

氣功で母の命を救った

二・二

氣功に直接関係するかどうか、一つの出来事が数年前にあったために紹介しておきます。私は休日などに用事を作らずに家でぶらぶらしていると何らかの不幸な事件が転がり込んでくるのです。従って会社勤めの間有給休暇を取るのに毎月一日と十五日を有給休暇の日として決め、用事を作り過ぎていたのです。そこで六年ほど前の春先の事ですが、父親が事故を起こしてしまい足を痛めてしまったのです。右足に穴のあく様な事故でしたが、幸い月初めの一日を休みとしており、先ほど話した様にたまたま何の予定も入れてなかったので三月一日病院へ連れて行き入院する運びとなったのです。そこまでは普通の人も同じ様な経験をされたこともあるでしょうが、それからは病院へ入院している父、そして家では母親と私と二人暮らしという日々が続いたのです。それからちようど一ヶ月後四月一日も同じ様に有給休暇をとり家にいたのです。この日も三月と同じ様に何の予定もなく家にいたのですが、朝方今度は母親が目まがいがすると言いだしたのです。すぐに車で病院へ連れていく事となったのですが、異様な感じなのです。父親を病院へ運ぶ時に感じられなかった違う何かを私は感じていたのです。

病院へ着きそばで看護している私は静かに目をつむると右から左へと画面が流れていくのです。それは母親の葬式の場面の様でした。そして黒い礼服、香典、花輪などすべて葬式に関

係あるものが走馬灯のように次から次へと見えるのでした。すでに母親は血圧が二五〇を越えており血迷った様子で何か叫んでいる様でした。

以前私は何人かの霊能者の先生方から手をかざして病気を直す方法もあるというのを聞かされており考えたのです。手から放出される気を利用して病気の治癒力を高めてなんとか直せないものかと考えたものでした。自分の身内がこの様な状態であり、ここで何とかせねばと思い試みようとしたのです。しかし以前に先生方に言われたことを思い出したのです。ここで他人の病気を直そうとすると自分にはね返ってくるということをし、特に私の場合は強い霊媒体質なので注意したほうがよいと言われていたのです。

しかしこの場合私の実の母親が生死をさまよい、この様な状態だと言うことなので初めてではあったが試してみたのです。そしてこの時私は母親にははっきりと言ったのです。

「私の言うことを良く聞いてくれ」、「すでに葬式の場合が見えているんだ」、「もうダメかも知れないが私が今まで信じてきたパワーを使うから私を信じて助かるものと思ひ、自分自身でも心の中で助かる様に願っていてくれ」と。そして私は母の背中に右手を当てて一心に母親が助かる様に祈ったのです。

そんな時期に父親は違う病院で足に包帯を巻いて入院しているというありさまです。世間で言う厄年とはこんな事かなあと思つてしまいました。

そして私が母親の背中に手を当てている間、例の葬式の場面は消えることなく続いて見えていたのです。およそ二時間私は母親にパワーを送った頃です。走馬灯の様に右から左へ流れてくる物の中に線香を立てる容器が現れたのです。ところがこの容器は不思議なことに逆さになって現れてきたのです。それ以来今まで見えていた葬式に関するものがいつさい見えなくなつて真つ暗になってしまつたのです。今思うのにこれで線香を立てる必要が無くなつたのを理解する様に、との映像だつたに違いありません。

その時をさかいに母親は急に元氣を取り戻し回復してしまつたのです。血圧も150以下に下がり医者とは歸つてもよいというのですが心配なのでその後三日間ほど入院をさせ、一安心したという事があつたのです。私は以前にもこの様なことで母親を助けており、今度が二度目だつたのです。幸いその後私には何のはね返りも無かつたのですが、結果として母親が私を信じて、そして目に見えないパワーをも信じてくれたために放出されるエネルギーが一致し助かつたものと思います。

おそらく私が一心に行つたもので右手から鋭いパワーのエネルギーが出ていたものと思われまふ。これが気功で言っているパワーなのでしょう。火事場の馬鹿力で人間は思いもよらぬ力を發揮する事もあるといいますが、何も考えずに助かることだけを一心に行つたために良い結果となつたのでしょうか。

久保田君のおじいさんが空に浮かんでいる

二・三

私は子供の頃からカンが働き、よく家族の人達をびつくりさせていました。だれだれが優勝してトロフィーをもらうとか、お店に買物に行っても今日はあの店は休みだとか、今日はお客さんが来るから家を留守にしないほうが良いとか、特に近所の人々が亡くなる時などはいつものもってわかっていたものでした。

そんなある日リアルに経験した出来事があったのです。あれは私が高校二年の時でした。学校へ通う時はいつも三人で自転車を利用して八キロの距離を話しながら通学していたものでした。私が出て五百メートルほどでS君の家に着き、そこから二人して今度は久保田君の家へと向かう毎日でした。ところがこの日に限りSくんが腹が痛いとのことで学校を休むというのです。しかたなく私は一人で次の友達の久保田君の家へと向かったのです。

しばらく自転車で走って行き、ある神社の前に来た時です。身体が急にだるくなりペダルに力が入らなくなってしまうたのです。今朝はどうしたのかと思い、そこで自転車のペダルをこぐのを止めてしまい、自転車から降りてしまったのです。しばらく訳の分からないままボーッととしてしまい立ち止まっていたのです。その時ふと神社の南の空を見上げたのです。

するとなんときれいなことか葬式に使う花輪が沢山丸くなって、空に浮かんでいるではない

ですか。なんで葬式に使う花輪が空にあるのか不思議で仕方なかったのです。花輪が幾つもあるのも連なって丸く輪を作っているのです。ところが良く見ると輪の真ん中に誰かの顔があるのです。今朝はおかしなものを見てしまったと思います、夢なのかなあという思いに思わずテレビ映画でよく出てくるように目をこすって見たのです。

しかしその花輪は空に浮かんדםまま消えないのです。次に私は全ての状況が夢なのかと思い、右手で左手の肘をつねってみました。思いきりやったものだから飛び上がるほどの痛さがあり、夢ではないということを確認したのです。たった数分の出来事でしたがなにか不自然さがあり、納得のいかない気持ちが残っていたのです。

この神社から砂利道を三分程走ると久保田君の家があるのです。先ほど見た不可解な出来事はすっかり忘れてしまい久保田君の家の曲がり角まで来たのでした。すると何ということか、久保田君の家の曲がり角から先ほど神社の前で空に浮かんדם花輪と同じ様なものがずらりと並んでいるではないですか。そうです。久保田君の家では誰かが亡くなったらしく、これから葬式を出すという準備をしていたのです。私はそこで神社の前にいた時と同じように久保田君の家の前でも茫然としていたのです。

結局そこでは久保田君のお父さんが出てきて、坂下君こんなわけなので今日はうちの子は学校を休むからといわれ、S君と二人に休まれたもので私一人で学校へ向かって行ったのです。

しかし私はそこで久保田君の家ではいったい誰が亡くなったんだろうと思ひ考へながら自転車を走らせていたのですが、ふと思ひ当ることがあつたのです。

先ほど神社の前で空に浮かんだ花輪で作つた輪の真ん中に人の顔があつたことに気が付いたのです。そういえば薄ぼんやりと久保田君のおじいさんの顔があつたことに気付き、びつくりしたものでした。

後日この事実を久保田君とS君に私は話してみたのです。するとそんな事ある分けないよ、それは夢でも見たのではないのかという様なことを言われショックを受けたものでした。

その後私の身の回りに不思議なことが何回か起き、彼等も確認していることから、やつと信じてもらえる様になつたのです。これを機会に信じてもらえそうもない不思議な出来事は私の持つ日記にだけ記録されることとなつたのです。

人の亡くなる知らせ

二・四

今までに人の亡くなる知らせに関しては何回となく経験してきたものです。次にお話する三件はみな人が亡くなる前に経験し、偶然の一致としては不可解なものなので記することとしました。

当時私の住む地区に青年会の組織があり、その中で私も青年会活動として若い仲間と夜遅くまでその活動に明け暮れた時があったのです。その頃は社会に出て電機会社に入社してまもなくの時期であり、何でも楽しく感じられた時でした。

いつもの様に青年会の集まりがあり、イベントの計画も終了し解散した直後のことでした。車で一分と走らないところで空に小さな火の玉が飛んでいるのです。今までに火の玉は何度となく見ていたのでさほど気にしないで見ていたのです。過去には大きいものだと一メートル位のものも見たことがありました。また人によつては見えない人もいる様なのです。同じ場所から見ていて、あれが火の玉だと教えてあげているのにもかかわらず、見えないという人もいます。幸い私は火の玉をよく見ることが出来た人物だったのでしよう。

青年会の会合の帰りに見た火の玉は直径が十五センチ位で中が青く透き通っている様なものだったのです。車のガラスに何かの光が反射しているのではと見間違っただけなのではないかと思ひ、

窓を開けて見ながら走っていたのです。やや私と同じ方向に走っているので追いつく事ができたのです。するとその火の玉はN氏の家の屋根まで来て止まっているのです。私も車を停めてじっと見ていたのです。すると火の玉はその家の屋根でぐるぐる回り始めたのです。しばらくしてその火の玉は消えていったのですが、私の場合この様な火の玉を見ると人が亡くなるのが定番だったのです。

私に限らずこの類のものは沢山の方が経験しているものと思われます。しかしこの時はこの屋根の上で飛んでいたN氏の家で不幸事ではなかったのです。亡くなったのは私と一緒に学生時代剣道をしていた後輩だったのです。ところがこの後輩の死因は交通事故死で、自宅の前道で数十メートル飛ばされたと言うのです。良く聞くとなんと加害者がN氏だったと言うのです。私と一緒にクラブ活動をしていた後輩の火の玉は私にわざわざN氏の家の屋根まで飛んで行き見させたのでしょうか。

またこんなこともありました。バイクに乗っていつもの様に買い物に出かけたのです。後ろに弟を乗せ、買い物済ませて走って来てあと数百メートルで家に着くという時、何者かにバイクを後ろに引っ張られたのです。買物の帰り、当時私の家までは道が一本しかなくそのうえ道幅が狭いため、当然スピードを出すことができないのです。

いくらスピードを出していないとはいえ、走っているバイクが後ろに引っ張られるというこ

とはびつくりしてしまうものです。そのうえ我々が前につんのめるのを防ぐのが精一杯だったのです。

この様なことが発生するのは科学的にみてもバイクのチェーンでもからみついたのかと思ひ、バイクを止めて検査をしてみたのですが、何の異常も認められず、そのまま帰って来ることができたのです。この時は弟に話すと恐がると思ひ黙って家に向かったのです。そして家に帰るやいなや親たちに「どこかで人が亡くなったよ、引つ張られたんだ」と言っているのです。この様なことがあるたびに毎回私は両親に叱られていたのです。親達にこういう事は人前では言つてはいけない類の話をいつもされたのです。もちろん次の朝となり組合の人が亡くなつたと告げが入つたのです。

次に話することは形として見えたという内容のものです。

私の家は田んぼの中にぽつんとあり、二階から前方が一面見渡せる非常に景色のよいところなのです。朝起きて前方を眺めていたところ、ある家を見ていると、なんとその家のそばに花輪が見えるのです。しかし良く見るとその花輪も見えないのです。目を細めてみると又花輪が見えるのです。私に言わせると花輪が見えるということは近々その家に不幸があるという前兆なのです。案の定数日後その家に不幸があり葬式を出すこととなつたのです。

それから数日後また私は家の二階から遠くを見ていたのです。そしてこの前はあそこの家

で花輪が見えたのだなあーと眺めていると、また花輪が見えるのです。前と同じように良く見ると見えないのです。そして目を細めてみるとまた見えるのです。同じ情景を二度見たのですが、私の思うのには先日葬式があつたから、まだ私の脳裏に花輪が見えているのだと解釈しているのです。

ところがなんとその家では一週間後にもう一人亡くなり二度目の葬式が発生したのです。不幸がある前兆として見せられる情景はいろいろな形がありますが、後になってみると、どれも納得させられる知らせなのです。

飛行機事故なぜ大澤さん危険な方へ

二・五

大澤さんは見るからに健康そうで内部から湧き出るエネルギーも鋭く感じるものがある女性です。陰性のタイプの人間と陽性のタイプの人間といますが、まさしく彼女は陽性のタイプなのです。陰と陽の関係では私が陰であるのに大澤さんは陽であるので、相性としては良かったのかもしれませんが。日頃私が体調をくずしマイナスになっている時は、大澤さんのそばへ行き黙ってそのパワーをもらっているほどです。だからといって彼女も私もいつも陽と陰だけとは限らないのです。それはもともと陰である人でも時として陽になることもあるのです。

ある時その大澤さんが海外旅行をするのだと言い、私のところに交通安全祈願に来たのです。ホンコンへ行くのだと言うのです。すでに航空券も手にしているといい、ルンルン気分だったことでしょう。ところが私の第六感というか、なにかいやな予感とでも言いましょうか、その話を聞いたとたんに飛行機事故が感じられてきたのです。私の気持ちはもちろんいらいらし、落ち着かないのです。しかし航空券をすでに手にしているというのだから、ましてこれから旅に出るということで、浮き浮きしている本人を目の前に旅行をストップさせる様なことは言えないので困ってしまいました。その頃の私は感応はあっても人を助けたり病を癒したりということとはなにも知らずにいたのです。もちろん符呪をつくることも除けをすることも、何か恐さ

があり、そのままにしておいたのです。

ところがこの時に限って神符を作り、飛行機事故の感じられるのを回避できたらと思い試みたのです。あんなにパワーの感じられる大澤さんに、なぜこんな事故が見えるのだろうかと思議でなりませんでした。早速作った神符を彼女に持たせたのです。でもこれで安心というわけには行かなかったのです。私は彼女が旅行している一週間もの間、私の家の庭に祭られている神様、宇迦之御魂大神に毎日お願いしたのでした。

大澤さんが飛行機事故に巻き込まれない様にと「もし事故が発生するのだったら一八〇度違うところで起きてくれ」「一八〇度ずれてくれないのならせめて一週間ずらしてくれ」と何度も何度もお願いしたものでした。あと三日、あと二日、あと一日と続けて行き、一週間がたつて無事に彼女が神符を手にして帰ってきたのでした。言うまでもなく、ほっとしたのは私のほうでした。一週間が何と長かったことか。しかし私にも大澤さんが無事に帰ってくるという事を確信はしていました。なぜなら陽のタイプであるうえに立派な守護霊に恵まれ安心できる人だったからなのです。

それから一週間が過ぎた時です。ホンコンの空港で飛行機が燃え上がり、何人かの死傷者が出た事故があったのです。テレビのニュースを見て私は直感的に「これだ」と思ったのです。毎日宇迦之御魂大神にお願いしてきたのが、一八〇度の方でなくて一週間の方へずれてくれた

様なのです。あんなにパワーのある大澤さんに何故この様な事故が見えたのだろう。この事から今回の旅行は彼女個人が計画した旅行ではなく、友人と二人で計画したものだったのではないかと予想したものでした。おそらく、たまたま友人が危険な状態であつたために、この様なことが発生し、旅行の計画に関しては大澤さんのパワーが加わり、友人共々無事に旅行を終えて帰国することができたということでしょう。

初めての透視

二・六

ちょうど石に興味を持った頃のことです。私の趣味に写真撮影があるのですが、よく行き付けの写真店に現像処理などで出かけていったのです。この写真店のレジにはアルバイトの若い女性がいつもいて、よく顔を合わしていたものです。外見は見るからに明るく、はきはきとした女性で仕事に専念していたのです。どんな人間でも悩みのないという人は少ないと思いますが、外見上では悩みがなさそうに見えるのですが、この新井さんを見ていると何故かローズクォーツという宝石が浮かんできると感じます。

ある日の事、その新井さんに若い女性の恋愛に力を發揮してくれる宝石でローズクォーツという石があるのを教えてやったのです。もちろん彼女も興味を持っていたのですが、そこである時私が海外で買ってきたローズクォーツを一つ差し上げたのです。そしてこの石を加工したいつも身に付けておくように話したのです。さっそく彼女は帰宅後お父さんに胸に下げられるよう加工してもらったそうです。

私がその写真店にいく度に彼女はいつも私の差し上げたローズクォーツを胸に下げているので、私にしてみれば差し上げた宝石をいつも身につけて頂いて非常にありがたいと思つたほどです。しかしある日のこと、いつも胸に下げているローズクォーツがないのです。彼女に聞

いてみるとどこかになくしたと言うのです。あんなに気に入ってつけていたのに、なくなってしまうて困ってしまったというのです。私もそれを聞いて同様に困ってしまい、そこで考えたのです。今まで私は一度も透視というものをやったことがなかったのですが、その新井さんの顔とローズクオーツを思い浮かべて瞑想に入り挑戦してみたのです。

日頃私は自分の気持ちを落ち着かせる為に家の二階を暗くした場所を作っておいたのです。後述しますが第二の夢もここで見ているのです。瞑想に入り新井さんとローズクオーツを意識していると、しばらくして風呂場の戸と床、そして床のところの履き物が浮かんで見えるのです。私は訳の分からないまま、そのまま見えたとおりに、戸と床とそして履き物の絵を書いて彼女のもとへ持っていったのです。私は彼女にこの絵を見て心当りがあつたら見てくださいと言ったのです。私はただ一心に新井さんのことを思い、ローズクオーツが見つかるといいなあとイメージし、この情景が浮かんで来たことを話し、その絵を渡したのです。数日たった頃いつもの様に例の写真屋さんに現像処理のために出かけていったのです。すると彼女は以前と同じ様に胸にローズクオーツを付けているではないですか。

私もびっくりしましたが、彼女もびっくりした様です。彼女は私に向かい「坂下さんは私の家に一度も来たことがないのに、よくこの場所がわかったね」と言い、ローズクオーツが見つかった時のことを話してくれるのでした。その時の履き物とは風呂場で足を濡らさないため

に履く靴だったということでした。

これも石の持つ波動と新井さんが石に対する思い、そして私を信じてくれたために透視という形で、なくなったものを見つけ出すことができたという結果でした。

その後私が勤務先で図面を書くためにCADというコンピュータマシンの前に向かっていた時です。急に新井さんがイメージされ、次に少し白髪の混じったおじいさんの顔がコンピュータのディスプレイに見えるのです。そして北の方角をイメージされたのです。何を意味するものか分からないが、後日例の新井さんにこの事を話したら東北に住んでいる彼女にとっても良くしてくれるという親戚のおじさんだったと言うのです。ついで見えてくれたのでしょうか。

まぼろしの交通事故

二・七

今年も雪が多い年ですが、三年前もわが地方では十六年ぶりという大雪にみまわれ、久しぶりの雪を見た年でした。例年であればせいぜい五、六センチも積もり、やんでしまうのですが、三十センチも積もったのを見たのは私の記憶では久々である。

その年の一月の十九日の日も前日降った雪が残っており、早朝の時間帯は路面が凍結しているため、通勤に車を使っている私にとっては大変な朝になったのです。とくに私は前にお話した様に体調の関係もあって、普通の人が出勤している時間帯よりも一時間も早く出勤をしているということ、車がそんなに走っていない早朝の凍結状況はつらいものでした。

スキーをやっていた頃の事を思い出し、少々路面が凍っていました、その日は前の車がいやに遅く感じられる位、過信して車を運転していたのでした。

ちょうど勤務先の会社の前（正門前）に来た時信号は青で、私は右に曲がるためにウィンカーを出しブレーキを使い、その交差点を右折しようとしたのです。ところがタイヤがスリップしてしまい右にハンドルを切りましたが、右に曲がらず信号待ちをしている歩行者の方へ車が走って滑っていくのです。十人位の出勤者が横断歩道で信号待ちをしている所へ、私の車が突っ込もうとしているのです。私は瞬時にスキーに向かう凍った道を走る時のことが脳裏に横ぎ

ったのです。ブレーキをかけてはいけません。このままでは十人もの人をはねてしまう。そこで思い切つてハンドルを元に戻し、真つ直前へと切りかえました。そしてアクセルをふかし、その交差点を右側通行で真つ直へと方向転換し、走り続けようとしたのです。ところが正面から今度は軽自動車が私の車の真正面に向かってきたのです。次の瞬間また違うことが脳裏に横切つたのです。このまま十人の人をはねてしまうのなら、いつその事この軽自動車と接触したほうがましであると考えたのです。

ばかな事を思つたものです。とは言つても瞬時に逃げられる状態ではなかつたのです。いくらスピードを出していたとはいえ凍つた交差点では通常走っているよりはるかに遅い速度であるから、凍つた道での接触事故を経験したことのある人はわかつていると思いますが、雪道などは以外と運転者は低速、慎重であるため、重大事故を避け、お互いにケガだけでも免れるのではないかということを瞬時に思いついたのです。そして軽自動車の方へ車はスリッパしながら走つて行き、あと十メートル程で前の車と接触という時です。

前方に見える軽自動車が急に消えてしまったのです。そして交差点を十メートルほど過ぎたところで私の車が止まり、通り過ぎてしまった交差点外で私はウタウンをし、右折できなかつた道へ向かうために車を反対方向へと向けました。今度は赤信号になつていたのでため停止線に止まつた時です。私の車と接触するはずだつた軽自動車が前方に走つていくではありませんか。

私はびっくりしてしまいました。それからというのが、またいやなものでした。先ほど突っ込んで行きそうになった通勤途中の歩行者が今度はもっと人数が増え、私のほうをいつせいにしているではないですか。

私は急に恥ずかしさが押し寄せ、いてもたってもいられないものを感じたものでした。

それより、なにしろ私の車と真正面で接触するはずだった車、そして私の車、この両者の時間帯が無いのです。もしかすると私の車の中を通り抜け走って行く情景を見た人が、歩行者の中にいたのではないのでしょうか。そして歩行者達も不思議と思わなかったのでしょうか。それとも私だけに感じられたものだったのでしょうか。たしかに正面に軽自動車が一台来ていたのです。過ぎ去ったパニックから解放され駐車場に車を止めた時、高なる鼓動を落ち着かせて、あらためて我が守護霊に深く感謝したのでした。

守護霊と霊障害

二・八

いろいろ逢つて来た霊能者で異色といえど異色かも知れないが、霊能者になる前に外科医をしていたという人に川野先生がいる。この人との出逢いは別の霊能者がこの川野先生のもとで勉強するようにと、その川野先生の本を手渡された事により始まったのです。

そもそも霊能者の本来の仕事としては相談をしてくる人の相談にのり、その相手の人が霊障害などを受けているのであれば、その霊障害を的確に取り除く事に意味があるのです。

あるいは霊障害が原因ですでに病気が発病している場合などは、根本となる霊障害を取り除くのはもちろんのこと、早急に病気が治癒されるよう指示することにあると思われます。

また症状が病気に限らず、霊障害が原因で恋愛、金銭面、人間関係など様々な人生を送る人もいるかと思われます。この様な人も霊障害の元を示唆し、幸せな社会生活ができるよう正しいアドバイスが必要なのです。

しかし世の中はそう簡単にうまくいく様なものではありません。それは私の場合も霊障害を受け、様々な霊能者との接触がありました。が、ひどいもので言うところと霊障害ではないのにもかかわらず霊障害だと言ひ、多額な請求をしてくる怪しい人物もいました。まさに弱者につけこんでビジネスをしている人がいるのも実態なのです。

私がたび重なる霊障を受けていく中で、相談にのってくれた川野先生から得た事とは守護霊の関係、そして金縛り等の事をよく教えて頂きました。私は子供の頃から沢山の金縛りを経験してきました。一週間に七回という大げさになりますが大なり小なり、一週間に五、六日は金縛りを受けていました。少なくとも川野先生に逢うまでは金縛りも私の生活の一部となっていたのです。ところが、この先生と出逢った時から急に金縛りが無くなってきたのです。何年となく悩まされてきた金縛りも瞬時に消えてしまったのです。

それどころか金縛りと歌を唄いあったり、あんな恐いイメージのする金縛りが楽しさと変わってしまった事です。この時ばかりは思わず良い霊能者にめぐり逢えて良かったと実感したものでした。

そんな金縛りも今では年に数回となってきたのです。しかしこの金縛りは近所で人が亡くなった場合などに受ける特殊な金縛りとなり変わってきたのです。それも時間帯が真夜中の二時過ぎが多いのです。おそらく私の守護霊とその亡くなった人の守護霊とが何かの交流、あるいは緩衝しているものかと思われます。

それにこの守護霊がいかに我々を守護して頂いて、時には注意を促がし導いているという、また逆に霊障という形で我々にわかつて欲しいと訴えているのがよく分かるのです。

川野先生をはじめ今までにお逢いしてきた数々の霊能者の方々は、みな同じように私に言っ

てくれました。「貴方には立派で高貴な素晴らしいパワーをもった守護霊がいる」と口々に言うのです。それがゆえに時には今の仕事を辞め神官をすすめる人、またお寺の仕事をすすめる人、霊能者を、そして宗教家をすすめる人と様々でした。

今まで守護霊に対して何も気付いてあげられなかったのが、今思うと申し訳ない位に思っています。考えてみれば心当りは沢山あります。よく世間であの人は運が良いとかいう人がいます。こんな人はやはりしっかりした守護霊を持っている人なのでしょう。

健康に恵まれ、仕事もうまく行き、金運にも、恋愛にも、そして結婚、家族へと何の問題もなく過ごしている人も、しっかりとした素晴らしい守護霊を持っている事でしょう。

私の場合も何かのクジ運とか、事故運とかは、なぜか良い方に避けられているようです。

連鎖反应的に飛行機が続けて事故を起こしたりしている。こんな時に限って私もよく飛行機を利用しているのです。辛い難を逃れたという事が何度かあります。又今日はどうも気が進まないなあと思いをキャンセルすると大きな事故があったり、なぜか食べたくないなあと思いき残したら、一緒に食べていた仲間が中毒を起こし私だけが助かったなどという事がよくあります。これもしっかりとした守護霊が守っていて下さっているのかと思えば頭が下がるものです。ところがこの守護霊も時々我々に霊障害として悪い形で連絡をしてくる様です。若い頃は恋愛をしていても、ことごとく引き離されてしまうのです。守護霊が私に与える修行かと思ひ、

涙をのんで好きな人と別れなくてはならない状態もたくさんあったのです。時にはテストです。前記しましたが私が何かテストをすると必ず体調が悪くなり、時には心臓が悪いわけでもないのに動悸がしてテストが手につかない。又ある時はテスト直前に下痢をしてしまい、力が出なくてテスト中ボーとしている事があり大変なのです。

もちろんテストの結果は言うまでもなく良い結果が出なくて困ってしまうのです。でもこんな時はいつも又守護霊が邪魔をしていて事を長引かせているのだなあと思い、これも一つの修行かなあと納得するしかないのです。そして不思議とテストが終わると体調も直り、けろっとしているのです。これも私を守護している力が強いだけに、ある面においては不運な目に合うのは避けられない事で、この事自体も守護されている過程であると思い、今では我が守護霊に語りかけるのです。一方ではなぜ私だけがこんな不運に思うことが時々あり、霊界に対する私のジレンマが湧いてくるのです。

幽霊との遭遇

二・九

何回か幽霊との遭遇をしている中で二つほど紹介しておきます。私は旅が好きで良く出かけるのです。特に写真撮影が目的で出かけることが多いのですが、自然相手なのであまり時間を設定してホテルや旅館に予約を入れておくことが少なく、また予約したところでキャンセルすることもしばしばあったのです。幽霊を目撃した内のほとんどは泊まる所でのことが多く、共通して言えることは、まずホテルや旅館が当日なかなかとれず、やつとの思いで飛び込んだ場所に出没するという具合です。

ある時能登半島での出来事でした。夜十時を過ぎても宿が見つからず何件も何件も玄関で断られていたのです。そして十一時過ぎになってある旅館に着き、言ったのです。

たぶん断られると思いましたでしたが心の底からお願ひしてみたのです。最初は例のごとく断られていたのですが、私が「廊下でもいいから泊まらせてほしい」という事を伝えたところ、主人が奥さんに向かって「あの部屋を開けてあげなさい」というのです。私の言ったかいあって泊まらせてもらう事となり部屋に案内されたのです。最初は部屋が無いといっていた二人でしたが、私は部屋に案内されてびつくりしてしまいました。なんときれいな部屋があったのです。こんなきれいな部屋があるのにもかかわらず部屋がないなんて、おかしいことを言うと思つて

いました。さて部屋に入って寝ようとして布団に入ったのです。

しかし暑くて暑くて寝られないのです。暑苦しくてふと障子の方に目をやると何と髪の毛の長い女性の横顔が写っているのです。気持ち風でも吹いているかの様に髪の毛が揺れているのです。ちょうどテレビなどで出てくる幽霊と同じ様です。私はそばまで確認に行ったのですが、結局人間の作った類のいたずらではないと気がつく、またしても遭ってしまったかと思い、電灯をつけたままにして一夜が明けるのを待ったのです。あんなに強くお願いして泊まったのだから、まさか夜が明けて夕べは眠られなかったなんて旅館の主人に言えたものではありません。仕方なく主人のところへ出向いて行き、何か言われのあった部屋だと察した私は、その主人に尋ねたのです。「あの部屋は何があった部屋なのですか」「怒らないから話してください。私はこの様な事は何回も経験しているのです」と。

しかし主人も奥さんも三ヶ月程使っていなかったというだけで、あとは「貴方がどうしても泊めてくれと頼むから」と言うだけで何があった部屋なのかについては何も言わなかったのです。私も宿では何回となくさんざんな目に遭っています。

ある時は霊に話しかけてみたり、またある時はなかなか消えないために水を上げたりお菓子をあげたりと大変であったのです。

二つ目は早朝の出来事です。勤務先での社内旅行の日に、同じ職場の女性が集合場所まで足

がないとのこと、幹事である私は何人かの人を車に乗せ集合場所へ向かう計画をしていたのです。朝五時集合ですので、私が家を出る時間は三時半頃だったのです。

秋ともなると五時半頃まで真つ暗なのです。私が家を出て十分ほど走った時です。

道の端にコスモスが咲いている通称コスモス街道と呼ばれる道があるのです。そこを通った時に前の方で女性が道を横切るのです。横断歩道があるわけでもないし、私はひいてしまったら大変と思いますピードをゆるめたのです。なぜこんな早い朝女性が一人で道を歩いているのか、ましてや私以外に車が走っていないのに何故わざわざ私の車の前で横切るのかと、いつそのこと私の車が通り過ぎてから横断すればいいのと思ったほどです。

ところが私がその女性の四、五メートルのところに来た時に、その女性の足が無いのに気付いたのです。なにか不自然で風に揺られて飛んでいく風船のような歩き方なのです。

普通の人なら右足と左足を交互に出すことから頭の高さが気持ち動くのですが、この足の無い女性の場合はその動きが無いのです。そのうえ右から左へ動いてきたその女性は左側に咲いているコスモスの中に入っていたのです。が何とそのコスモスが全く動かないのです。結局後でわかったことなのですが昼間通った際、交通事故死亡現場と看板が立て掛けてあったのです。結局この様な霊現象を見ると共通性があるのです。まず私が遭遇した霊は八割ほどが女性でした。そして現場に行くまでに苦労する点、そして交通事故やその人の死亡した場所で真

夜中よりも夕方、早朝にも多く出沒する様であるのです。機会あつたら他の実例も発表したいと考えております。

胆のうガンが直った

二・十

信じるという気持ちには計り知れないパワーが潜んでいる様です。それは私の友人でまゆみさんのことですが、最近休みになつてもなかなか遊びに出かけられないというのです。聞いてみるとまゆみさんに良くしてくれるというお婆さんが、病気で病院に入院しているために、休みになると見舞いと看護で病院へ行っているというのです。

元気いっぱいのもゆみさんも、このお婆さんの話になつた時は元氣のない電話の声なのです。ところが良く話を聞いてみると、どうやらこのお婆さんは現在胆のうガンで入院しているとのことなのです。まゆみさんの話によると手術をすることもできず、食事も取れず、やせていくだけだということです。まゆみさんが私に言うのに、「あんな良いお婆さんだからぜひ助けて上げたい」と言うのです。「坂下さんのパワーで何とかしてくれませんか」と言うのです。しかし私自身が出しているパワーでもないで「早く良くなるといいね」と言うことだけしか言えなかつたのです。本人が私の家に来て困つたことを相談されたのであれば、その場で神殿に向かい祈願位はできるのですが、何とも遠い話なのです。

まゆみさんのお婆さんという事で、私にしてみればまた聞きの内容なのです。

しかしお願いされては私も黙って見過ごす訳にはいかず遠隔操作をしてみたのです。

まゆみさんには、おばさんの病氣（胆のうガン）が早く回復し、元気になる様子イメージする様に話し、その病氣のおばさんの情報を得たのです。私は得た情報通りに、直って欲しいというまゆみさんの希望を私の神様宇迦之御魂大神にお願いしてみたのです。本人が病氣でここに来られないが何とか一日でも早く良くなる様念じたのです。

そんなことがあり一ヶ月程が経過した時、まゆみさんから電話がかかってきたのです。「おばさんの胆のうガンが直りました。ありがとうございます」と言うのです。

私はびっくりしてしまいました。そんなと思いながらも、その経過を聞いてみたのです。

すると一ヶ月程前に私に電話相談された直後に、おばさんの病氣の再検査が行われたということです。それも今までの主治医が変わり違う医者が担当したということです。そして以前に撮った胆のうガンと、最近行った検査の結果が違うということです。胆のうのそばにできていたガンが消えてなくなっているということです。周りの人達にしてみればガンでなくて良かったと胸をなでおろしているかも知れません。しかし医者が変わり再検査したらガンが直っていたというのだから偶然といえタイミングが良すぎるのです。我々素人が考えるのに場所が胆のうだけに検査の結果胆石がたったため、ガンであると誤診された可能性もあるかと想像するものです。

いずれにせよ最初診断された胆のうガンは消えてなくなったのです。食欲も元に戻り元気に

なつたと言うのだから言うことはありません。神の力で胆のうガンを直してくれたのか、一方主治医の誤診でガンと宣告されてしまったのか分からないのです。

分かつていることはおぼさんの病氣（胆のうガン）を一日も早く直してあげたいと強く思うまゆみさんの気持ちに素直であつたということです。病氣が良くなつて欲しいという一心の氣持ちが、おぼさんに伝わり治療力を与えたのではないかと思うのです。

病氣に限らず窮地に立たされたときにプラスに考え信じていける人ほど奇跡を手にすることができるのではないかと思います。

いん石の目撃

二・十一

宇宙から来るものにUFOを代表として、それに最近では微粒子（銀色）が注がれて来るのを感じているのです。私も早朝の時間帯によく感じることもあり、我々の体は少なからず宇宙との係わりがあるのではないかと思うのです。この大宇宙から見れば人間なんてほんのちっぽけなものです。しかし命ある一生物とすると素晴らしいものなのです。

いくつかある宇宙から来ているものにもう一ついん石があるのです。最近ではUFOの目撃もさることながら、このいん石の目撃も多いのでここでお話しておきます。

秋から冬にかけて空気が澄んでくると、よく流れ星を見ることが出来ます。また小高いところや山などに登るとそれはそれは次から次へと飛んでいくのが見えます。この流れ星も地球上から見て放物線を描いて流れていくのですが、いん石は近くで見ているために放物線というよりもほとんど真っすぐに見えるものなのです。

初めて目撃したときは朝の早い時間帯だったのです。当時私は中学生でアルバイトとして新聞配達をやっていたのです。眠い目をこすり家族が寝ている間に起きていくのにはつらいものがあったのです。顔を洗って配達用の自転車を家の庭に置き準備をしていたのです。ふと西側の空を眺めると青白く光るものが飛んでくるのです。真っ暗な空にぽつんとひかり尾をひいて

落ちてくるのです。その瞬間ガシャンと私の家の物置小屋の裏に落ちたのです。落ちてからも残像現象で私の目には尾が焼きつけられていたのです。

落ちる瞬間なぜか色が赤く感じられたのです。この時間というのはよく何秒と例えられますが、私には一秒もかからなかったのではないかと今でも思うのです。ただあの時の情景を思い出すとスローモーションで甦ってくるのです。

尾をひいて落ちてきたので、私はすぐに落ちたところから火が出て火事にでもなつては大変と思い、見に行つたのです。私の目撃したところからいん石までは直線で十メートルと無かつた距離だったのです。他の目撃例も各々十メートルからせいぜい三十メートル位のものでしたのです。また車で走つていての目撃も数多いのです。たまたま私と一緒に車に乗っていた人で、いん石を目撃できた人が何人かいたのです。それは三年前のことで、その年は一年に四回もの目撃ができたのです。このうちの二回はほとんど昼間で、夕方の時間帯ではありませんでしたがまだ明るかったのです。しかしこの明るさの中で見る事ができるというのは、いん石の光量があるかに大きいものだったのでしよう。

この様ないん石は私だけに見えるのでしょうか。あるいは他の人も見ているのでしょうか。それとも落ちてくるいん石にあまり気がつかないのでしょうか。ある時には落ちて音がしたり、またある時は尾が何十メートルもあつたり、記した様に昼間の明るい時間帯に見えたり、こん

なにいん石が落ちてくるということは当然私の頭の上にも落ちてくることが考えられます。

いったい大宇宙は私に何を連絡してきているのでしょうか。この謎は未だ私も分からないままなのです。読者の中で、このいん石の目撃に関して私にアドバイスが頂けたら幸いです。

匂いから感じるもの

二・十二

人間の持つ五感の一つで匂いを感じ取る嗅覚という感覚がありますが、氣功の氣から匂いが感じ取れると言った様に、様々な匂いで自分の身の回りや予知として知らされてきたことがあるのです。

ある日のこと勤務先の構内の道を歩いていると、前の方から私の知人でもあり、写真の撮影仲間である人が近づいてきたのです。そして彼は私に会うやいなや写真仲間の友人が昨日交通事故に遭ったというのです。事故にあったという人はその日牛乳配達途中でバイクに乗り、ヘルメットをかぶらず道端の立ち木に接触したと、心配そうにその知人は言うのです。緊急性病院に運ばれたが今なお意識不明だというのです。すると話中どこからともなく私の前を右から左へと風が吹いていくのです。次の瞬間私の鼻に線香の香りがプーンと漂ってくるのです。その時「早く良くなるといいね」という知人に私は言葉が出なかったのを今でも覚えています。

結局一週間後に四十二才という若さでこの世を去りましたが、この様なことを経験したという話はよく耳にするのですが、私の場合は特に多いらしく何度となく経験させられてきたのです。町に出て時々線香の匂いがすることがあるのです。こんな時に限って隣組の人や、知人が亡くなったり、家であつては先祖の命日だったり様々な事態がヒントとして出て

くるのです。また面白いことではこんなこともあるのです。買物に出た出先で時々線香の匂いを感じることはあるのです。こんな時はそばに線香を販売しているコーナーがあるか探すのです。線香の匂いがするのたいがい不幸な話が舞い込んでくるのでそこで線香を売っているコーナーがあるとほっとするものです。

言葉で言い表すことはできませんが、街を歩いていてある匂いを嗅ぐことがあるのです。その匂いとは死者が発する匂いなのでしょう。匂った付近を見ると葬式だったり、お通夜だったりと共通していることがあるのです。また病院などへ行くと腎臓の病気をもっている人が独特の匂いを発しているのを感じるのです。

この匂いとは人間が発している体臭や口臭とはやや違うものなのです。それは距離をおいても匂いを嗅ぐことが可能で、特に鼻をクンクンさせる事もなく、どんな匂いがするのかなあと思ったときから感じてくるものなのです。

従って一般で言う匂いとはすこしニュアンスを変えて考えて頂きたいと思います。

最近では特に精神病の人の匂いがあることに気がついたのです。日常生活の中にいても神経質やノイローゼに近い人も匂ってくるのです。私が感じるのに、その精神病が重ければ思いほど匂いが強く感じられるということです。ここで言う匂いとは言葉ではもちろん言えませんが、あえて表現をしてみると死者の匂いというものは乾燥している匂いとも言いましょうか、ま

た腎臓の病気を感じさせるのは苦い鼻をつくような匂いで、精神病の人はむしろ甘い匂いなのです。リユーマチや神経痛を持っている人は塩っぱい匂いなのです。また宗教や霊感的に興味をもっている人も一種独特の匂いをもっているものなのです。

私としてはまだまだこの匂いに関して研究をしていくつもりですが、この人間から発せられる匂い以外に土地の持つている匂いもあるのです。土地に関しては人間とは逆に乾燥している匂いのする土地ほど良いイメージが湧き、湿った匂いのする土地ほど悪いイメージが湧いてくるのです。今後は、この匂いを基に占いをする人が出てきても不思議なことではないと思うのです。

第二章 神様からの語りかけ

神様の声が聞こえた

三・一

ある朝起きると同時に声が聞こえてきたのです。数年前から声が聞こえたことがあり、時には男性の声だったり、時には女性の声だったり、片方の耳だけから聞こえてきたり、両方の耳から聞こえてきたり、頭の中だけで聞こえてきたりいろいろでした。

しかし一概に聞こえといっても簡単に考えるわけにはいかない部分もあります。それというのも、まず本当に自分を守護している守護霊からのものなのか、あるいはそれ以外から聞こえてくるものなのか見極める力を持っていないと危険な部分があるということです。

またそれ以外にも注意をしていかなないと聞こえがあるためにやろうとしているものに集中できなくなってしまうです。そして他から見ている第三者に与える印象などを考えないと大変な部分があるのではないかと思う。

その朝の語りかけはこんな内容でした。「私の名前は豊受の大神、豊受の大神です」。続いて「豊受大神宮」というのです。

仮に私に神様からの語りかけがあったとしたら、現在まで私を守り続けている神様で稲荷系

の宇迦之御魂大神という神様いるのですが、この神様だと私は信じていたのです。

しかしその語りかけは宇迦之御魂大神という語りかけではなく、豊受の大神「豊受大神宮」だったのだ、ややショックを受けたものでした。私は納得がいかず、さっそく神様に関する本を買ってきたのです。豊受の大神という神様はどんな神様なのかを知っておこうという具合で本を開いてみたのです。すると初めて知ったのですが豊受の大神と宇迦之御魂大神とは同一の神様だったのです。

結局この豊受の大神という神様は伊勢神宮の外宮とのかかわりが深いことが分かったのです。そういえば以前（十五年程前）に私が伊勢神宮を旅して歩いていた時に道に迷ってしまい、この神様に助けられたことがあったのです。詳細に関しては別の機会にゆずる事としまして、また訪れてみたいという気持ちもあつたせい、豊受の大神の神様が宇迦之御魂大神と同一の神様であるということが分かった時点で、私も安心と信頼を得たような気分になったものでした。

神様も呼び名が違えば書き方もいろいろあり宇賀之御玉大神とか宇迦之御魂神とも書くこともあるようです。中には一人で十六もの名前をもっている神様もいるということです。この時豊受の大神の声の後にマリシテンの声も聞こえてきたのです。

このマリシテンのもととはインドの神様で、日本へは神仏混合の神様として伝わったものと言

われています。ダキニテン、カンギテン、弁財天などのように後にテンのつく神様はインドから伝わった神様であるということが言えます。結局このマリシテンという神様は日本の武道に関する神様と崇められているところから、私が少年期から稽古に励んできた剣道や柔道、そして空手道と関係があるものと思われるのです。

神様の声（聞こえ）がして、そのとおりに行動をとったことがあるので一つ紹介しておきましょう。前記した様に私は勉強の意味で気功を習ったことがあったのです。

たまたま気功の大会ということで、中国から先生を迎えてのイベントをするために、私も空手道を指導する立場から気功との共通する点をふまえ、主催者の先生方と数名で壇上から見ることとなったのです。恐れ多くもはるばる中国から偉い先生をはじめ、九州からそして埼玉からと次々と名のある先生と一緒に厳肅なる壇上にいるにもかかわらず、不謹慎に思われるかもしれませんが私は壇上からある一人の女性を見ていたのです。

その女性をよく見ていると気功に対する受け入れ方を勉強してみたいかのように、また、見るからに気功をとりいれ潜在意識を活性化させ眠っている自己治癒力やパワーを浴びたいという様子が私にひしひしと伝わって来ていたのです。それに持っている病気が表面化しないために私の体と同様に憑依体質であり、この様な人は自分の過去性に非常にづらい思いをしてきた人に見受けられるというのが分かってしまうのです。私の心が同情したかの様に彼女の方を

見ていたのです。

そんな状況とラップするかの様に私の耳もとで何かが囁くのです。「あの女性に名刺を渡しなさい。名刺を渡しなさい。」としきりに言うのです。そして私はその大会が終わってから声が聞こえたように、その女性の所へ行き自分の名刺を差し上げたのです。

中略しますが今になって思えば私の守護霊が私自身に言い聞かせた事だったのでしよう。

結局私はその名刺を差し上げた女性と親しくなり、今でも声が聞こえてきた事が不思議に感じてならないのです。

サボテンのパワー

三・二

石には意思があり、木には気があると言われますが、恐いこともあるのです。

群馬県の前橋市に敷島公園という所があり、ここでは春と秋にバラの花が咲きほころび沢山の人がにぎわうのです。そんな春先にバラの花を見に出かけたのです。

バラ園を歩いて西側のほうへいくとサボテン園があり、温室ハウス内にサボテンがたくさんあったのです。ついでののでサボテンのある中へ行き、いろいろと眺めていたのです。

するとサボテンには不思議なパワーがあるのです。小さいサボテンのそばではさほど感じないのですが、大きい葉を持つサボテンのそばへ行くと何故か頭がふらつくのです。

そうこうしているうちにすっかり疲れてしまい、しかたなく近くにあったベンチに腰をおろし休んでいたのです。しばらく休んでから、またサボテンの中を通り歩き続けたのです。

すると今度は先程よりもっとひどく頭がふらつきめまいがするのです。

どうやらサボテンのそばにしていると何かの力が加わり目まいとなつて現れるのです。そんなことに気がつき、あわててサボテンの中から抜け出して来たことがあるのです。この場所に限らず他の場所でもサボテンのそばにいて具合が悪くなったことがあるのです。

その後の私の研究によるとどうやらサボテンからも気が出ているようなのです。この場合は

私にマイナスに働いたのですが、この様な場合はもしこのサボテンが病院の重傷の患者のそばなどに置かれていたとしたら、考えただけでもゾーツとしてしまいます。気を取られてしまうというのはこの様なことなのでしょう。

おそらくプラスに働くこともあるのではないかと思うのですが、観賞用などには少し注意が必要なのかもしれません。しかしこの日はサボテンに気を取られてからは、いっこうに体調が良くなりません。ふらふらしながら前橋の市内を車で走ったのですが、休日とあって診察をしてくれる医者が見つかりませんでした。思い余って休診の医院へ飛び込んだのです。さいわい看護婦さんが入口のそばにいたので体調の悪いことを訴えて、休診ではあつたけれど中に入れてもらうことができましたのです。看護婦さんは私の体温と血圧そして脈をとってくれて特に異常が無いことを私に伝えてきたのです。「どうしてもこれ以上体調不良を訴えるのであれば、今なら奥に先生がいるので精密検査をしてもいいですが、どうなさいますか」と言うのです。ここまでの状況で何度も経験しているように科学的処置では直りにくい霊媒体質特有の症状に気が付いていたのです。サボテン園から家に帰るまで体調は良くならず、そのまま不調が続いていたのです。医学的に原因があるわけでもないのなら例の霊障を疑うしかないのです。

また私の親もサボテンが好きで何鉢か育てているのです。夏の間はさほど天候を気にしなくとも良さそうなのですが、冬にもなると温室に入れたり、暖かい日には日当りの良いところに

出すのです。よく冬場の寒い時でもきれいな赤い花を咲かせているのを見かけるのです。しかしその寒い日に日当りのよいところに出すと私がいつもいる部屋のところなので時々サボテンの発する気を感じてしまうのです。それは私の家のサボテンだけではなく知人の家のサボテンも同じように感じるのですが、そばにいとどうしてもそのサボテンの気を感じてしまい、体が疲労してしまうのです。そこで私は考えたのです。

サボテンもいたずらに私に気を出しているわけではないと思うのです。それなので今度はそのサボテンのそばを通るときに声をかけてやるようにしたのです。そのかけ声とは

「元気に育ってくれよ」とか「きれいな花を咲かせてくれよ」などで、そうやって言葉をかけてあげるようにしたのです。誰かそばに人がいて声を出せない時は心の中で言っただけのようにしたのです。そんなことをしばらく続けていると、今度は逆にサボテンのそばを通ると良い気がでているのです。私の心がけ一つで良い方へ向いたのでしょう。サボテンと気を合わすことができ、なんと不思議な植物なんだろうと思ったものでした。

家でのサボテンはこのように会話（マツチング）ができたのですが、未だに他の場所でのサボテンは強い気を発しており、そのパワーを感じてしまうのです。

神様が降りる 神様からもらった名前・福寿帰命

三・三

ある晩神からの語りかけで私の体に神が降りるということです。そのために体調に変化が出ているものだということを知らされるのでした。全くの素人考えではありますが新しい守護霊が降りてくるので頭の中にそのスペースを作るために、めまいという形で現れたのか。又神が降りるという事がどういう事なのか、知られざる世界に不安を感じたものでした。

神は十一月十三日に私の身体に降りてくるということを断言したのです。

十一月十三日というたとえ六ヶ月あるのです。しかし六ヶ月もの間私の体調は不調のまま続いたのです。夏になるとめまいがひどいために病院に三週間も入院したほどでした。

そして半年が過ぎ十一月十三日を迎えたのです。十一月にもなると群馬の北の地方では紅葉真っ盛りです。尾瀬、そして水上へと紅葉を楽しんで家に帰ってきたのです。

神が降りると言われたことも忘れてしまい、自然の美しさに満足して十一月十三日は何の変化もなく無事に過ぎていったのです。

あくる日十一月十四日の早朝四時半頃だったかと思えます。ちょうど私の家にカミナリでも落ちたかのような大きな音とともに私の体がベッドにたたき付けられたのです。

私の家は無線交信のためにタワーが建てられており、夏場になると年に数回カミナリが落ちることがあるのです。その音と言ったら、ともに耳を開けて聞いていられるような音ではないのです。鼓膜でも破けてしまうかの様な大きな音が落雷の時にはするものです。

しかしこの朝の出来事はカミナリとは違って何の前触れもなく急にドーンという乾いた大きな音とともに、ベッドの上で寝ている私の体が壁とベッドの間にはさまれるかの様に沈んだのを記憶しています。その時は一瞬何が起きたのか分からなかったほどです。

その日の朝食時、神が降りるとするのはこのことだったということを知りました。

神が降りるすなわち神が落ちたということでしょう。しかし形としては大きな音とともに何かが私の体に落ちてきたということで、私にしてみれば理解に乏しく知り得ることの出来ない情報だったのです。もし神が降りてきたと言うことを別の意味で理解できるのなら、それは私自身の持っている守護霊が変化したという事になるのです。いわば霊格が高められたという事なのでしょう。あるいは守護霊であつたものが霊格の高い神となり、守護神として新たな出発をしたのではないかと理解できるのです。いずれにしても自分を守護している何かが一ランクUPし、パワーを付けたものと解釈されるのです。

その後いく日かたつて神様から「福寿帰命」という名前をもらったのです。

埼玉県の妻沼町にあじさい寺として有名な能護寺というお寺があり、六月のあじさいのシ―

ズンともなると、それはそれは色とりどりのあじさいを見ることができるので。

このお寺の西側には十三仏の一つである虚空蔵菩薩が祭られており、一月、三月、六月の十三日に御開帳され、毎月の十三日が縁日となっているのです。

いつの頃だったか数年前から私の守り本尊様が虚空蔵菩薩であるという事を聞き、毎月の十三日にお参りに行くようになったのです。ある日の事いつものようにお参りしていると帰り際にそのお寺の住職がやってきて私に小さな本をくれるのです。表紙には真言宗・・・と書かれてありあまり宗教的に興味のない私は、その本をただもらって来ておくだけだったのです。けれど、せっかくもらったのだから読むだけでも読んでおこうと思い、目を通したのです。それから何ヶ月かしたある十三日の日でした。いつものように虚空蔵さまにお参りに行くと、今度はまた住職がポケットに入るくらいの表紙には佛前勤行次第と書かれてある小さな経文を私にくれたのです。前にも話したように、あまり宗教的なことに興味がないので、これも目を通すだけでした。中には観音経偈と裏には十三仏へのご真言などが書かれてあったのです。しかし捨てるわけにもいかず、せっかく住職がくれたのだから、お守り代わりにでもと思い毎日バックの中に入れて持っていたのです。

ところがある日のこと宇迦之御魂大神が私に言うのです。私に福寿帰命という名前をくれるというのです。神様が私に名前をくれるということは、それなりにわけがあるのだらうと思う

のです。

おそらく私の守護霊（守護神）が自分の霊格を意識し、とにかく形として名前を欲しがっていたものではないかと予想されるのです。そして神様がくれると言うその名前が私の持っているものを書いてあるというのです。どういふことかというとな神様が言うのには、どこかのお寺で緑色をしたアコードオンみたいな本をもらってきただろうと言うのです。

その本の中に私の名前があるというのです。確かにあじさい寺でもらってきた本は緑色でそれを広げていくとアコードオンみたいな形の長い経文なのです。

その中に私にくれるという福寿帰命という名前が入っているというのです。よく見ると観音経偈の一部に福聚海無量というのが出ており、裏のページには帰命頂礼で始まる内容のものが記されているのです。この二つを合わせることにより、たしかに福寿帰命の名前が出来るのです。この様にしてもらった福寿帰命という名前は、私の守護神の名前であると言うことを意識し使用することとしたのです。生きていくうちに自分の名前以外に霊界にまでも通じる名前をもらったということは幸せなのかもしれません。よく宗教家や霊能者、そしてお寺の住職などが自分の本名以外に持っている名前も霊界に通じる名前として、守護霊が持たたいという希望のもとに使われているものと思うのです。

このような名前を持つことにより、守護霊が自覚しその人物を一生守っていくという意識が

生まれるものと思います。

またこの時合わせて具足神通力という力を与えられたと言っているのです。もちろんこの具足神通力という言葉もその観音経偈の中に記されているのですが、未だにこの具足神通力なるものを意味する状況には至ってないのです。おそらく今後の私の人生において何かのチャンスが与えられる時に、この意味が解読できるものと信じています。

神社に咲いたうどんげの花とろうそく

三・四

私は家の庭に宇迦之御魂大神を祭る小さな社を持っています。この社（神）は今まで私に数え切れないほどの不思議な体験をさせてくれました。元々は人目につかない家の裏側にあり、よくある氏神様として祭られていました。その昔、社と言ってもわからず作ったそまつなもので、中には幣束とお札が入っており、小さな器に水が上げられていただけだったのです。子供の頃この裏庭が遊び場所だったせいもあって、よく中を覗き込んだり子供心で水を上げたりして遊んでいたものでした。その頃子供ながらに悲しくなったり、つまらない事があったりすると、いつもこの神様をお願いしたものでした。そして遊びに行った先で友達とけんかしたり、親に叱られたりして困ったときにも、この社に手を合わせていたものです。よくある場所へ行くときが落ち着くとか、安心していられる場所などを人は持っています。私にとつてみても当時はここの場所にいることにより、気持ちの落ち着くところであるということを感じ、何故か安心していられる場所だったのです。

この社となじみが深くなったある日の事この神様が表に出たいと夢枕に立ったのです。表に出たいということはどうかというと、当時私の家の北側にあった社を家の南側に移してもらいたいということです。そしてもつと人目に触れたいということなのです。後で分かった

ことなのですが当時社のあった場所がマイナスの気をもった土地だったので、おそらく神様の居心地も悪かったことなのでしょう。そして表に出ることによってたくさんの人目につき、訪れた人々に力（御利益）を与えてあげようということだったのです。

私は親と相談して当時の法縁様（方位、方角を見てくれる人）という人を訪ね相談したのです。その後社は表の庭に移されたのです。

平成六年六月一日にこの社に三千年に一度しか咲かないという非常に珍しい幸福をもたらすという白い「うどんげの花」が咲いたのです。うどんげとは優雲華と書き、草カゲロウという虫のたまごで、普通なら音符の様な形をしていて毎年六〇九月頃見かける事もあるのですが、うどんげの花とはこのたまごが集まって花状になっている非常に珍しいものをいうのです。白が吉兆で黒が凶兆などと言われており、インドでいううどんげとは想像上の植物で、三千年に一度花を開き、その花の咲く時は金輪王が出現すると言い、また如来が世に出現するとも伝えられています。

いずれにしても三千年に一度しか開花しないというたとえから、珍しく極めて稀なことのたとえとして使われているようです。

このうどんげの花が庭の社の中心部に咲いたのです。たった十五ミリほどの大きさなのに珍しいせいなのか、地元の新聞社やテレビ局まで来て放映される事となったのです。

この花が咲くいく日か前の夕方のことですが、この社の中に家の西の方から長い尾をひいた火の玉が飛んできてスーッと入っていくという不思議な事があったのです。

この状況はおそらく私一人しか経験していないと思います。その後になつてうどんげの花が咲いたので神様が意思表示したと解釈したのです。

不思議なことは他にも沢山あるのです。興味深い話なのですが私が自宅で瞑想をしたりまた神棚に向かつて手を合わせる際、ろうそくを灯して気持ちを落ち着かせ精神集中をして行うのです。時にはろうそくが激しく燃え上がったり、そばにある櫛が動き出したり、社全体が地震のように揺れたり、神様が酒を飲んだり様々な情景を見ることがあるのです。

中でも、ろうそくがいちばん敏感に反応する様であり、その流れたろうそくが時として形を作り表現する様です。以前から、ろうそくの解け出した形のもが何点かありましたが手元にあるものだけを写真撮影してとっておきます。

これもきつと神様の意思表示で形として現れてきたものだと言えるのです。時には神仏の像として、また光背や動物、手印、変わったものでいうと仏様の持ち物や五輪塔、それに位牌のような類のものまで形を作ることがあるのです。

第四章 迷信と科学の狭間

水の迷信を科学する

四・一

ここで水に関するエピソードを二つほど紹介しましょう。私の家のすぐ北側（車で二分程度）に小高い丸い形をした薬師山という山があります。この山は日本三大薬師といわれる様に正月の一月四日にもなると沢山の人がやってきて厄除けに来るのです。今では頂上にあつた本堂も火事で焼けてしまい、本堂を山の下に移して厄除けを行っているのです。また最近では春先にカタクリの花が咲くことから沢山の人がやってくるのを見かけるものです。すでに三十年も前になりますが、この薬師山の中腹から水が湧き出ている場所があつたのです。といつても今は消えてなくなっているわけではありません。

私はこの本を出版するに当り、しばらくぶりにこの場所を訪れたのでした。たまたま住職の奥さんとお会いすることができ、話をするのできたのです。すでに住職は二十三年前に他界し、奥さんと子供たちでこの薬師山を守っているとのことでした。その日はちょうど二十八日ということで奥さんは山の地藏様の赤い帽子やよだれかけを付け替えているところでした。奥さんは火事に合つた時の事とか、幸い御本尊は火災からまぬがれた等の話をしながら

頂上まで行き、その他の昔の話も私に聞かせてくれるのでした。

奥さんが帰った後で私は例の水の出ている場所が気になっていたもので、その場所へ寄ってみたのです。するとすでに三十年前とは違い風化が進み鳥居もなくなり、今ではよどんで汚れた木の葉の沢山入っているただの池だったのです。池と言っても、ここは水たまりの形で直径一メートルほどで深さも一メートル位ではないかと思われたのです。

ところがこの水たまりには昔から伝説があったのです。目の悪い人がこの水で目を洗ったら悪い目が直ったということから、目に効く水だという事で、その昔栃木県の佐野市の方面からも沢山の信者さんがやって来て、この水で目を洗い手を合わせ合掌して帰っていったのを私は学生の頃よく目にしていました。

ところが当時この水の事を聞きつけた東京からの大学生がやってきたのです。彼等はこの水を持って帰り、いろいろと分析調査したそうです。するとどうでしょう、この成分の七〇パーセントがあ目の目薬に使われているという、ホウ酸と同一物質が岩石の中から湧き出ているということが分かったのです。昔の人が迷信のように信じて目を洗った水が、何とこの場合は科学的にも証明されたことになったのです。

次にお話する内容というのは人間が水を飲んでおいしく感じたり、また身体に良いという物質の中には、水がある岩石の所を通って湧き出ることにより、より体に良いカルシウムやマグ

ネシウムなどのミネラルを含んで湧き出るといことです。例えば富士山に積もった雪が何百年もの年月をへだてて湧き出る水が、日本の名水としても有名になるのと同じように、その場で含まれるミネラルの違う良い水が各地で出ているとか見つかっているといことです。

私の住む群馬は、あの赤城の山で有名な国定忠治がいたところなのです。その昔この国定忠治は賭け事（ギャンブル）が非常に強く、あちこちでやっていたそうです。昔の言葉というバクチです。このバクチをやり、いつも大金をもうけていた、という言われがあるのです。その国定忠治の墓が群馬県の東村という所にあるのです。

ところが何年か前からこの墓石が削られて一部の人達に飲まれてしまうという事が起きたのです。それは一度や二度ではありません。誰がというより、どんな人が削って飲んでいるかというと、なんとこの忠治の墓石を削ってなめ、また飲んでギャンブルに勝つ様にあやかうという考えのもとで毎夜のように削られていた様なのです。現在では近所に桐生市の競艇場があり、高崎市、前橋市とギャンブル場があるため、このギャンブルに勝ちたいという希望のもとに飲まれていた様なのです。今ではこの墓も入られない様に金網で囲ってしまい、墓石が削られてしまうというとは無くなってきた様です。

私が調べてみるとどうやらこの石を飲む、あるいはこの石を通過した水を飲むことが体に良

い様なのです。この種の墓石とか黒曜石、真珠石を通った水を飲むことにより、人間の右脳の活動が活発になるというのです。当然右脳の活動が活発になると α 波が出てイメージングやカンが鋭く発達しギャンブルにも大きく、そのカンを活かすことが出来るというのです。

どなたが最初削って飲み始めたのか、この科学的根拠に基づいて始めたものなのか、偶然、国定忠治にあやかり始めたものなのか今では分からないのです。

以上のような迷信化された話もありますが、我々が毎日飲む水にあつては健康に良い水を飲みたいものです。そこで気を出しやすく潜在意識を目覚めさせ健康にも良い水の作り方を紹介しておきましょう。本来であれば山から出ている湧き水（ややアルカリがよい）などが良いのですが無理もあるかと思うので水道水から話を進めます。

電気分解をしてアルカリ水を簡単に取り出す装置が出回っていることから、このような機械を利用するのも良いでしょう。私の場合はこの水を石に通すのです。石に通すことは容器の中に石を入れ、その上から水を注ぎ落ちてくる水を利用するのです。

この石は真珠石、黒曜石、鍾乳石、火打ち石等で二〜三センチ程度のものです。この石と一緒に砂鉄を入れておくのです。そしてこの砂鉄は容器の外から永久磁石で磁化させておくのです。するとなぜか甘みのあるくのある水にと変わるのです。この水を空腹時や精神集中させる時にコップ一〜二杯飲むのです。この水は磁化することにより、この何パーセントかの電気

エネルギーとなり酸素濃度や殺菌力が増し、血液にも良いことになるのです。

このため、自律神経の調整やDNAの活動、血液中の活性化そして神経やホルモンの分泌に大きく貢献し、 α 波を多く取り出す脳磁波への影響も大きくなるのです。

またヨーロッパ等ではろ過する意味で木炭を使っていると言いますが、私の場合この木炭がろ過するだけの目的ではなくて気を働かすのに別の意味でプラスに影響しているものと考えているのです。木炭以外では瓦などの焼き物の割れたものも潜在的なエネルギーを働かすのに力を貸してくれそうなのですが、まだ今のところ研究中ですので答えにはいたっておりません。ここで水以外にも潜在意識を働かせるのに役立つものを別件として付け加えておきます。私の今までの研究によりますと緑茶、フルーツの中でも特にグレープフルーツ、レタス、そして柿などがその代表例となります。従って共通して言えることはビタミンCということになります。詳しいことは分かりませんが、どうやらビタミンCをいつも飲んでいることにより、気や潜在意識を目覚めさせるのに役立つことと言えるのです。

足のか神様・足尾山様

四・二

私の家の裏側は大丸山という名前のついている古墳があり、沢山の畑で作られているのです。この古墳の西側三百メートル程の所にもう一つの古墳があり、この山を小丸山と呼んでいるのです。大丸山の高さはおよそ二十メートルであり、周囲も歩いて二十分位なのですが、小丸山の大きさは高さ周囲ともに大丸山の四分の一ほどの大きさであり、同じように畑で作られているのです。大丸山の伝説も、たくさんはいわれがあるが今回は小丸山についての伝説を書いてみることにしました。この小丸山の頂上、頂上といっても登り口から一分も歩かないところが頂上となっているわけですが、そこに足尾山という小さな祠があるのです。

今では小さい石が一つと木が一本生えているだけで、そこへお参りにいく人も見かけなくなりました。以前に私がこの足尾山のことが気になったもので調査を試みたのです。

私の知るかぎりでは、その昔足を痛めた人々がこの足尾山を訪れお参りをし、早く良くなる様祈願して痛めた足が良くなり楽になったので帰っていったといっています。

こんな話を近所の年寄りの人達何人かに聞いたことがあったのです。ところが五年ほど前に亡くなった近所のお婆さんで宮崎フサさんという人がいたのです。フサさんはこの祠へいつもお参りをし、掃除をして自分の作ったわらじをかけておいたのです。そういえば一本生えてい

る木には例のフサさんが掛けたと思われるわらじが三つも四つも重なり風化したままになっていたのです。

実は私もこの祠にある伝説で不思議な話を聞いたので、このお婆さん（フサさん）が生きているうちに話を聞いておこうと思い、フサさんを訪ねて行ったことがあったのです。

フサさんは高齢で当時九十五才、その時ちょうど市から長寿のお祝いを受けた直後だったのです。私がしばらくぶりのお客だったのでしょう。縁側には柿が何個か置いてあり、一人でその柿を食べようとしているところでした。その柿を私にも差し出して二人で食べながら機嫌良く昔の話が始まったのです。

そのフサさんは言うのです。この足尾山で毎年今頃秋になるとお祭りが行われて、それはたくさんの人達が集まって来たそうです。この場所は栃木県の足利、佐野、小山といったところから、ここ太田を通って伊勢崎、前橋へと続く道を横に入ったところなのです。

このことから旅の途中で痛めた足を癒したり、疲れを取るために体を休めたりする場所としてたくさんの人が休んでいったところだということです。そのフサさんの話では大きなのぼり旗が作られていて、祭りにはこの旗が立てられたということです。

それに今では木が一本それも三、四メートル程のものが生えているだけですが、当時は太く長い杉の木が三本あったそうです。遠くから来る人達はこの三本の杉の木を目安に歩いてきた

と言っていました。ある時この三本の杉の木を切ったそうです。

そして一本をこのフサさんの家を造るときに土台とし、また一本をこのフサさんの家の前の家へあげたそうです。残る一本はこのフサさんの家の奥にある雷電神社ののぼり旗を収納する小屋の材料にと使用したそうです。その小丸山には今では足尾山がただ一つだけですが、その昔は道祖神を初めとしていくつかの神様が祭られていたそうです。

この三本の杉を切る機会に足尾山以外の神様は雷電神社へ移され、ここで人目に触れ、お参りをしてもらう事にしたそうですが、その後もたった一つ残った足尾山は、足を痛めた人が来るたびに不思議な御利益を授けたそうです。全然歩けない人がこの神様のところへ来てお参りをするとうすつかり良くなり歩いて帰れたとか、傷付いた足でお参りにいったところ、いつもなら長引く傷も数日で消えてしまった等の言い伝えがあるのです。フサさんも長寿で生きられた間に沢山の御利益を授かったのでしょう。

私の父親もこの伝説を知っていたせいか昔よく足を運んだそうです。六年ほど前にその父親が足に穴をあけてしまうとほどの事故にあったのです。農耕用の機械の刃が左足に食い込んでしまうという事故だったのです。私は父が病院へ入院をして落ち着いたのを見計らって、この足尾山を訪れてみました。すると石は土の中にうもれて回りには草が生えて汚れているのです。私が以前に見た足尾山とはかなり変わってしまい、あとかたもないほどです。何も知らない人

ならこの場所へ行つて間違つて足で踏んでしまふかも知れないほどです。しかし一本生えている木には誰が作つて掛けておいたものなのか一對の新しいわらじが掛けてあつたのです。土で汚れたワンカップの瓶が横になつてゐることから、今でも昔の伝説を知つて訪れる人がいるのでしよう。私も父親の足の事故の件でこの祠に来たので、さつそく掃除から始めたのでした。周りの草をきれいにむしり取り、祠を表す石を磨いてあげ、人目につくようにしてあげたのです。そして持つてきたわらじとお供物を供えて、足のけがが早く直るよう祈願をし歸つてきたのです。

私の父親はキズ病みをしないせいもあり、足に穴があくほどの事故なのに、言うまでもなくまもなく良くなつてきたのです。昔の人が足の悪い人に、この足尾山が直してくれると言つていたのが本当の様です。

第五章 潜在意識の開花法

趣味と軌道修正

五・一

世の中にはいろいろな趣味があり、その趣味を極めていくと何と一つの趣味にいかに興味をもつ人が多いのだろうと気が付くことがあります。私も沢山の趣味をもっていますが、その都度同じ趣味に興味を持つ人が多いのに関心をさせられるのです。

そんな中でこの人はいつそうの事この趣味をしていないで職業にしたほうが良いのではないかと思われる人がたくさんいるのです。

例えば趣味で絵を描いている人がいます。この人は通常はちゃんとしたサラリーマンとしての仕事を持ち、仕事の合間を見て趣味で絵を描いて楽しんでいるとします。

ところがこの人が一流のプロも出展するという中に混じり、絵の展覧会などに出品するとします。そして出品するたびにことごとく上位に入賞し、他の人からも素晴らしいとほめたたえられる。プロである人が出品しても入賞できないような大舞台で、堂々と何回となく他から認められるということがしばしば起こるのです。

しかし本人はプロとしてではなく、あくまでも趣味としているのです。仏教の世界の例えで

いうと、この人の先祖に絵のうまい人がいたという因縁があつたのかもしれませんが。また実際に絵に關した仕事をプロとしていたのかもしれないなどという話があります。

ここで私が言いたいのは、この人はサラリーマンの道を歩むよりも、ジュウタンでできた道すなわち絵を描いて人に見てもらい、喜ばれてその絵を他人に買ってもらい生計を立てていくという一つの案が頭の中に浮かんできて、良いのではないかと思ひます。一生をサラリーマンとして、あくまでも趣味として絵を描いて行くか、転職をして絵を描くことに専念するのか考へてみる必要があるように思ひます。

あの鉄碗アトムで有名な手塚治虫氏は医学の道を目指して進んでいたと言われています。しかしある時出品した絵が認められ、絵すなわちまんがを描いていくことにより大成功したと言ひます。ある野球の選手でピッチャーをやつていた人がプロレス界に入り名を残し、やはり大成功をしています。逆にスポーツ界で大成功していた人が政治の世界に入ったために、以前は体で勝負していたのが、今度は心で頭で勝負するようになり、苦しみ始めているという人も見られます。もちろん、あの美空ひばりさんみたいに持つて生まれた天性で一生涯を全うする人もいますが、いろいろなのです。

私は現在空手道の道場を持ち、何人かの人達を指導してきていますが、こんな私にも坂本師範という素晴らしい先生がいるのです。この坂本師範の空手に対する情熱は目を見張るものが

あります。組手一つにしても動いている時、目が本当に楽しそうに輝いているのです。

心の底から空手が好きで動きたいという気持ちで外面にどつと湧き出ているのです。

私が指導を受ける前の十年間は、この空手の組手の部、型の部とあらゆる大会において全て上位にいたということです。それもほとんどが優勝という文字に飾られていたという事です。

思えば私もこの様な先生に直接指導を受けて頂いて、ましてや私の様なものが、この先生の所属する会で指導員になってしまつて、いささか頭の下がる思いがするのです。

その時の事を先生が自ら大会での成果を口にはされていないが、ある機会に優勝の文字が書かれた賞状がぶ厚くあつたのを見せてもらったことがあつたのです。それに普通人であれば優勝カップなど目に付く部屋などに飾っておく様であるが、あまりに多すぎて物置にどつさりとは積まれていたのを私は見たのです。この様なことは謙虚な人間こそが行える技であると思えたのです。

日本でももちろん指折りの上位に入る人ですがアフリカ、インド、オーストラリア等各国で指導してきたといえます。この様な先生であつても空手をプロとしないで自分の持つ自営業のかたわら趣味、スポーツとして指導し、自分でも練習しているのです。

空手の切れのよさ、スピード、型、人間性、指導性、何をとつても他の人にひけをとらない人物であります。先を見る目を持っているのでしょうか。これを職業とし軌道修正した場合こ

の先生にとってはおそらく大きな問題が待ちかまえていると考えられるのです。趣味はあくまでも趣味、仕事は仕事、これで成功している人と言えるのです。

しかし私が見るのに、この坂本先生の場合、趣味として行っている空手道のほうが仕事よりもスムーズに進行しているといえるのです。仕事に關しての守護靈の働きと、趣味に關しての守護靈の働きにいくぶん差がある様に見えるのです。この様な場合例えば趣味（空手道）上のトラブル、人間關係、日程調整などの進行狀況が仕事上での問題よりも勝っていると言えるのです。

従つて趣味だけがなをした場合は直りは早いが、仕事上だけがなをした場合は、なかなか直りにくいなどの欠点があることが予想されます。また仕事を犠牲にしてしまうことはあつても、趣味が優先していることが多いものです。もし本人に気がついていない場合でも守護靈は仕事と趣味に優先順位をつけて、うまくバランスを取っているのでしょう。

ダビデの星

五・二

人間の気を高めたり大宇宙のエネルギーを取り入れたりする方法としては、こんなものを身につける方法もあります。それにはダビデの星（ソロモンの印章）を利用してみるのも良いでしょう。

ソロモンの印章ことダビデの星の作り方を紹介しましょう。

作り方は簡単です。正三角形を二つ作り、片方を反対向きにして重ね合わせることににより六点の角をもった星ができるのです。または円を書きその半径で六等分して正三角形を二つ作ればよいのです。書いてもよい、金属で作ってもよい、ダンボールでもよく、用途はいろいろあるのです。よくピラミッドパワーと言いピラミッドを作り底面から三分の一ほどの所に物を置いておくと、生物だったら腐りにくいか、金属が錆びにくい、小動物が長生きするといったことを聞いたことがあります。人間が中にはいれば頭がさえ大宇宙のエネルギーを吸収できるといいます。このダビデの星も同じように大宇宙のエネルギーを取り入れられ、人間との整合する不思議なパワーがあるということです。

以前にこのダビデの星を作り、実験を試みてみたことがあったのです。

トレーニングセンターでダビデの星を持たない状態で各種のトレーニングの回数の時間を

限ってカウントしたのです。例えば、なわとびにかぎって説明すると、自分の持っている力を振り絞って一生懸命に飛ぶのです。その後こんどはダビデの星を持つてなわとびをしてもらったのです。被試験者は何の前知識も無いのですが、ダビデの星を持った場合同じ時間内で疲労している状態であるのにもかかわらず、はるかになわとびの回数が増えているのです。総合的にみると各種のトレーニングの回数が平均して十三パーセントほど上昇しているのです。

またこんな試みもして見たことがあるのです。

私は休みを利用して、あちこちと出かけて行き趣味である写真を撮り歩いています。

ある時このダビデの星の事を思い出し、ほんの軽い気持ちでこのダビデの星を書いたのです。その書いた紙というのは写真撮影に使うフィルムの入っていた箱の裏側に書いたのです。私の持っているカメラは現在どんな種類のフィルムがカメラの中に入っているのか表すために、このフィルムの箱の片隅を切り取り、カメラの裏ブタに取り付けができるようになっていたので、私はたまたまそのダビデの星の書いてあるフィルムの箱の一部分をカメラの裏ブタに差し込んでいたのです。もちろん外からはこのダビデの星は見えずにフィルムメーカーの外箱が見えるだけです。こんな事をして撮影をしていたのでした。

ところがそれから数ヶ月がたち写真を整理していた時の事です。

数ある撮影した写真は自分の気にいったものであれば大きくプリントし、各種コンテストな

どに出したりして楽しむ方法もあるのです。そして整理して行くに従い、不思議なことに気がついたのです。そうです。コンテストに入賞していた写真を引き抜いて調べたところ、例のダビデの星の書いてあるフィルム箱の差し込んであった時に撮影されたものが全てコンテストに入賞していたという経験があったのです。この写真が表す様に、例えばコースターに使うと水やコーラや酒等の味がおいしくなるかもしれません。又植物や花の近くに書いておくと何らかのよい影響を与えるのではないかと思います。

参考ではありますが大宇宙のエネルギーを取り入れるために仏教に関する団体、宗教の団体、超能力開発に関するマークに使われているのも事実よく目にします。先日よくテレビに出てくるある若者のグループのポスターの右下の隅に、このダビデの星が印刷してあったのを見ました。彼等はこのパワーを知つてのうえで考えて使用しているものと思いますが、たしかに何らかの効果がある様です。私もこのダビデの星に手をかざして気を送ると、何らかの力が返ってくるのです。ほとんどの場合暖かい圧力が感じられるのです。このダビデの星に限らず三角形、五角形、八角形で構成されたものについても力が感じられるため、研究していく必要がある様に思われます。

ダビデの星に代表されるこれらのものは、今自分の発している気の高まる効果になんらかの影響がある様なので今後も研究していこうと思つているのです。

パワーストーン

五・三

石のパワーはその石の大きさよりもむしろ種類によるのです。小さな石でもパワーのある石はピリピリと感じられるものです。石は持つ人にも異なりますが、その波動を利用するには次の様なことが言えるのです。

一般には水晶系のものは精神集中や、やる気を起こさせるのには利用しやすいのではないかと思います。水晶をはじめルビーやシトリンなどがそうです。また心の癒しを得るのにはムーンストーンやローズクォーツ、ヒスイなどが良いようです。

私が見て特別に波動を発しているのにはラピスラズリー、トパーズ、トルマリリン、オニキス、ヘマタイトなどがあるのです。これらの石は個人が持つことにより独自のパワーを生み出してくる様なのです。

石は自然界で作られる時の温度や時間の関係から硬度が決まってくる様ですが、私自身も石に硬度のようなランクを付けているのです。私の言うランクとは我々に潜在意識を目覚めさせてくれる石、神が潜んでいる石、すなわちその石を持つことによりプラスのエネルギーを働かせてくれるものを高いランクにしています。特別の波動を持つラピスやインペリアルトパーズがそうなのです。逆に持ってもさほど効果を發揮しない石を低いランクとしています。

例えばダイヤモンドにあつては実際の硬度は高いのですが、私に言わせれば特にパワーの感じられない低いランクの石なのです。輝き美しさには素晴らしいものがありますが、高価な値段のわりにはそういう意味では必要のない石となってしまうのです。

またその石の持っているパワーを十分発揮させるのには、いくつかの条件があるのです。それはというと

①原石であるということ。誰の手にも触れていない、そして加工されていないものほど十分なパワーを発揮できる様なのです。加工をしてあるものに関しては加工時に人の持つ想念が入り込んでしまうのではないかと言えるのです。

②持つ本人が気にいっていること。いくらパワーのある石だからといっても愛情を持たずに持っていたり、またなんとなくいやな石だと感じるのであれば波動が合わないためにミスマッチングとなってしまう逆効果であると言うことなのです。

③浄化されていること。石も人間と同じようにその場に居合わせた状況や音、光、匂いなどを時間とともに知っているのです。いわば石によつては記憶力があるのです。この様な記憶は自分と波動のあつた石として我々が持つためには、過去のことはすべて浄化という形で石に忘れてもらうのです。

私も日常石をもっていると、その時その時に石の温度が感じられる時があるのです。

時として暖かくなったり、また時として冷たくなったりして注意（警告）や意思表示をしている様です。

サボテンの項でサボテンにパワーがあると書きましたが、その時も私が手にしていた水晶が非常に熱くなったのを覚えています。特に水晶にあつては温度の変化はあまり表さない物質なのですが、こんなことも起こるのです。

私が石に勉強をさせられたというきっかけには以前にこんなことがあったのです。

ある日のこと私に「石を身につけよ、石を身につけよ、インペリアルトパーズを身につけよ」というイメージが働くのです。これは今考えてみると感応ということなのでしょう。

その石というのはつまり寶石の事なのです。私は当時石には全く興味がなく、なぜ石を持たなければいけないのかと思ったのでした。その感応によると加工した石よりも原石が良い様なのです。私は近所の宝石店を八件ほど回ってみたのです。

そこで行った店でトパーズを見せてもらったのですが、トパーズと言う石は二種類あり、水晶系の青いシトリントパーズと黄色いインペリアルトパーズがあるのです。

シトリントパーズは私の目的としている大きさで四〜五万円で買えるのに対し、片方のインペリアルトパーズはなんとその十倍もの値段なのです。お店の話では今出回っているのはこのシトリントパーズで、値段もご覧のように手頃だということです。でも私が手をかざして手のひ

らにピリピリパワーを感じられる石は黄色いインペリアルトパーズだったのです。

そこでいろいろな宝石店を回りインペリアルトパーズを搜したのです。八件回った中で二軒ほどそのパワーのある石を見つけたのでした。大きさは十五×十ミリ位で加工してありました。なかなかパワーのあるものでした。ある店では今日ならば三十八万円で売っていただけるとの事でしたが、その日は買わずに帰ってきたのでした。なにせ全く知らない宝石のことなので、その種の本を買うことにしたのです。

本を買ってみると何と宝石の種類が多いことにびっくりしました。スポーツ選手が精神集中に水晶を首に下げているということとはよく耳にしますが、他の石でも色々なものがあるのには驚き、また色とりどり目を楽しませてくれる事も知り得ました。

あまりにも高価なので買わずにいたある時、シンガポールへプライベートで行くチャンスがあったのです。ちょうどチャイナタウンという所へ行った時に、このインペリアルトパーズの原石と巡り会うことができたのです。

いろいろな原石がある中でそのインペリアルトパーズを手にした時熱くジュワーとパワーの感じられたのを覚えています。大げさにいうとその石は私と巡り会うのを待っていたかの様でした。結局日本で買うのよりも、はるかに安い値段で買うことができたのです。

この種の宝石は値段ではないのです。いかにその人に合ったパワーを発揮してくれるかとい

うことです。今ではこの原石に日本で粹を付けてもらい、毎日首に下げるようになったのです。後で気が付いたのですが本によるとちょうどこのトパーズが私の誕生石だったということです。

私はそれ以来宝石に興味をもち、女性などがネックレスにイヤリングに指輪にして付けているのを見ると、なぜかこの石はこの人に合っている（マッチング）とか、いつも指輪に宝石を付けているがどうもあの指に付いている宝石は合っていない（ミスマッチング）とかが感応として現れてしまうのです。

たしかにその石の持つパワーで自分とのマッチングの取れたものを持つことにより、その人の事業が栄え、健康増進、恋愛、気力などに大きくプラスになることが言えるでしょう。なぜか私は水晶を枕元などに置いておくと強すぎるのでしょうか眠れないことがあり、ムーンストーンなどを持つと気持ちが和らぐことも気がついてきたのです。そんなことから水晶などは魔除けとして使用しているほどです。

今ではこんな人にはこの様な石が合うとか、海外などに出るたびに安い原石ではありますがパワーのある石を買い求め、石とマッチングして生活のできる人に差し上げています。

ここで不思議な変化のあった石を付け加えて紹介しましょう。この二つの石はたまた私が持っているもので、一つはラピスラズリーの球と、もう一つはオパールで指輪になっているも

のです。この二つの石は私がマツチングのできる石として新しいものを買い求めたのです。

私は石が原石であろうと加工品であろうと手にしてきたものは必ず身につける前に浄化という作業をします。手にした時、また手にしてから時間が経過した時は必ず行っています。こうしないとせっかく持っている癒しの力やパワーが半減してしまうのはもちろんのこと、ミスマツチングを起こしたまま持っていることになるのです。

この二つの石はもちろん購入後すぐに浄化したものですが、手にした時は中に見える模様は無かったのですが、まもなくこの様に中からの模様が淡く白く出てきたのです。これはこの石を持つ人の潜在的な気の力と、石とのマツチングを取ろうとするパワーとがぶつかり合い緩衝という形を取って模様となって現れたといえるのです。

この様に石を自分のものとし、信じて持ち歩く方法もある種のエネルギーを出し入れするのに非常に有効であるということが分かります。私の持っている石は今でも一日に何回か冷たくなったり、暖かくなったりしている様です。おそらく外部とのエネルギーのマツチング、ミスマツチングにより波動に変化が起きているものと思われます。

普通自分が宝石店に行つて、この石なんとなく良いなあと感じるものは、わりとその人と波動のあったものである場合が多いようです。

ここで誰にでもできる簡単な私なりの石の浄化法をお教えします。石が自分の手に入るまで

は色々なところを経過してきていることが考えられます。ある時は人の手にわたったり、またある時は日の目を見ずに暗いところで眠っていたり、前記したように音や匂い、火事や事件事故を見ているかも知れないのです。そんな時はもう一度もともと石のあつた場所において落ちて着かせてあげるのです。石のあつた場所というのは土の中ということになるのです。

もっとも簡単な方法といえ、まず入手した石を塩の中につけるのです。塩は普通の塩でいいのですが、石が七〇八割隠れる程度まで入れるのです。なぜか塩には石を浄化させる作用がある様なのです。その後静かな場所で自然を感じさせてあげるので、その方法としてはまず太陽の光をいっぱいに浴びさせること。次に月の光もいっぱいに浴びさせてやること。したがって満月の前後が最も効果的と言えるのです。そして風の当たる場所、雨の当たる場所を選び一〜三日ほど放置しておくのです。このことから最短の場合二十四時間で浄化の作業が終わるわけです。特に問題がなければ、塩の入った容器に石を入れて、屋根やベランダなどに置いておくのも一つの方法といえます。

注意したい点があるので付け加えておきます。水晶系の石はあまり問題ないのですが、エメラルドやタイガーズアイ、それにトルコ石やオパールの一部の石は塩と相性が悪く、注意をしないと更なる崩れたり、変色したりする危険性もあるので気をつけなければいけません。特に真珠などは塩を避けたほうが良いでしょう。この様な場合は塩水でさっと洗い流してすぐ

に真水できれいに洗ってやるなど、あるいは塩をビニール袋に入れ石と別にしておくなど工夫が必要です。塩が使えない場合は砂の中に同じ方法で入れて浄化させる方法がありますが、この場合もあらかじめ砂をきれいに洗っておいてから行わなくてはなりません。この様な浄化作業を経過したあと祈念するなどパワーを付けてあげるのです。

付け加えておきますが、石は持つ人によつたり、手元に来るまでの経過状態によつては自分の良き味方になったり、逆にミスマッチングを起こしてつまらぬ作用が現れる様ですので取扱いには注意が必要であると思います。

靈夢から得るもの

五・四

夢には様々なものが登場します。次元を越え場所を考えずに時には自分が子供の頃に戻ったり、何かに追いかけられたり、死んでしまったり、すでに亡くなっている人と逢ったり、非常に恐い思いをし目覚めたら汗びっしょりだったり、金が入ったからと喜んでいたら目が覚めてしまったりいろいろです。ところがこの夢また夢の知らせに関しては我々を日常生活においてプラスへ方向づける材料となっている場合が多いものです。

いわゆる靈夢がそれと云えるのです。私も枕もとにノートが置いてあり既に三十年間にわたって記録をし続けていたのです。オーストラリアの心理学者フロイトが夢判断で唱えている様に神秘に包まれた部分がありますが、非常に興味深いものも沢山あるのです。

今までの私の経験からいくと目覚めるほんのちよつと前に見る夢は得てして正夢になるケースが多いのです。これは人間の持つている潜在意識が寝ている間に開花するものと考えられます。そして過去の経験の元に像を作りだし、その神秘なる部分は未来の情報をも我々に伝えてくると思われるのです。

私が夢の日記を最初ノートに付け始めた時は、毎日の見る夢で次元は異なるが正夢になったというのが九〇パーセント以上の確率で起きたのです。それは学生時代のことであり、何に対

しても疑いを持たなかったための高い確率を示したものだと思います。

自分でもそのままにしておくわけにはいかず、しっかりと記録を取る様になったのです。

特に自分が計画している旅行先や、会社での出張先の様子などは出発前の幾日か前に必ず同じ場面を夢見ていたものでした。

専門的なことは分からないがレム催眠、ノンレム催眠というのがある様です。

この夢を見ている時はレム催眠時で α 波の出ている時間帯であり、眼球が動いているとも科学的に実証されているのです。夢がもとで分子構造の形をその夢から発見し、科学的に貢献したという有名なドイツのケクレの話もありますが、まさに科学と迷信の空間の様な話であるのです。

私が今までに見てきた夢の一部は霊夢であるといえるのです。中でも興味のある傾向がいくつかあるのですが、正夢に値する時間帯（夜明け頃）に見かけた夢で、朝起きた時にすでに雨が降っている場合は、ほとんどの場合正夢が逆転しているのです。例えば自分が交通事故にあっている夢を見たとします。これが正夢の時間帯であり目覚めた時すでに雨が降っているとなります。するとこんな時は私が交通事故にあっているのではなくて、私の一台前の車が夢と同じように事故にあっているという具合なのです。

また、この正夢も学生時代にはかなりの確率で的中していましたが、大人になるに従いの

率が下がってきたのです。それに大切なものに限って部分的ではあるがカラーで見えていました。これも不思議な部分なのです。

こんなことから私はまず読者には夢の日記をつける事をおすすめします。毎日夢を意識すると夜中に目覚めた後に夢の続きが見られるなんて事もあり楽しくなるのです。

目覚めてすぐに記録しておかないと忘れてしまうから目覚めたらすぐに書くようにするとよいでしょう。走り書きでもよいのです。例えば「山道を歩いていたら蛇が三匹現れた。その蛇の色は黒かった。恐い思いがした」などと書いておくと良いでしょう。もちろん日付もしっかりと書き加える事も必要です。それに見た夢が忘れられないという事がしばしばあります。これに関してはその夢に結び付く何かが影響しているかよく考え調べてみるとよいのです。

私の場合は記憶にある夢は良くない事や注意を促す予知に関することが多いようです。

例えばお金を拾った夢を見て、なぜかこの夢が忘れられないとします。そして良く考えてみたら以前に友達からお金を借りていて返却していなかったり、また友達もそのことをいいたく思っているため、想念が伝わって来ている場合もあるのではないかと知らされる事があるのです。

また第二の夢に関しても興味深いものがあるので試してみるとよいでしょう。第二の夢と言っても私が勝手に第二と解釈しているだけなのですが、専門的には別の名前が付けられている

のではないかと思うのです。それは夜寝る時にベッドやふとん等に入りますが、ベッドやふとんに入らず正座をするのです。手の位置は特に規制しません。腹の前にも組んでも合掌しても良いでしょう。楽な体制で目の位置は正面を向いたやや下方を見た状態で目をつむるのです。そしてこの状態で寝てしまえばよいのです。しばらくして体の安定が取れずにコックリとしてくるはず。そして目覚めます。

大切なのはこれと同時にゆっくりとした呼吸をすることです。鼻から吸い込み、ゆっくりと口から吐き出すのです。いわば腹式呼吸の一種です。大きく息を吸って下腹を膨らませて吐く時は時間をかけて下腹がへこむ程度に行うのです。慣れないうちは鼻から吸って鼻から吐くのも良いでしょう。最初のうちは私もそのようにして呼吸をしていました。

この時に一瞬ではあるけれど夢を見ているのです。この夢を日常生活のヒントとして判断行動するのです。正夢といわれる夢と共通している部分もあり、興味のある情報が得られるのです。この数分間で夢がみられない人も何回か訓練することにより夢の見られる様潜在意識が動き出す様なのです。自分自身で質問を投げかけ夢に答えさせるという方法もプラスになるのではないかと思います。私は最初の頃の相談者にはこの方法で何度となく予知や透視としてみてあげていたものです。夢の中で相談者の問題が解決するのであれば非常に便利かと思われませんが、予知などの情報は得られても霊障の除去として利用するにはまだまだ時間がかかる様で

す。私もこの第二の夢で何回も助けられました。

私の知人には、この夢を見ることにより潜在意識を働かせて相談者に占ってあげるといふ靈能者もいるほどです。

ギャンブルへの働きかけ

五・五

ここに靈夢に関して非常に興味深い経験があるので、読者の皆様に一つだけ披露しておきます。それはギャンブルに関して当たり目を靈夢から教えてもらった時の事です。

私の住む地域ではギャンブル場があちこちにあるのです。前橋の競馬、高崎の競輪、桐生の競艇場、伊勢崎のオートレース場、足利では競馬と、車で一時間も走れば全っていけるところなのです。ギャンブルと言っても私個人ではほとんど興味がなく、何年か前にパチンコとマージャンを少々やって程度です。また勉強の意味では桐生の競艇と伊勢崎のオートレースにたった一度だけ行った事があるのです。この時は運よくどちらにも当たって高級乗用車が買えるほど儲かった記憶があります。もちろん、その後友人から何回となくギャンブルへの誘いがありました、罪悪感のために最初で最後としたのです。

そんな折り見た夢があつたのです。それは湖に何台もの船(競争用)がしづきを上げ走っているのです。そうです。どうやら競艇場でこれからレースが行われようとしているところです。

すると次の場面に大きな時計が出てきたのです。その時計というのは競艇場で選手がスタートタイムを取るための時計だったのです。大きな針が真上のゼロに差しかった時がスタートタイムとなり、選手はこのタイミングでスタートするといった時計です。そして次の場面でその時計の上に数字が出ているのです。左側に1、右側に4という字が時計の上の空の部分に出ている夢を見たのです。この夢はどう見ても

競艇で1-4を買うことにより、当たり前が出ることを教えてくれたものだと解釈できるのです。

そこでさっそく親父にその夢の事を言って買わせようとしたのです。競艇場へ行って何レース目だかわからないので全てのレースで1-4を買うように言ったのです。

その日親父は栃木県の足利市に用事があるとの事で出かけて行き、出先で私の言ったことを思い出したそうです。そして足利競馬場に行き何レースか続けて1-4という券を買ったそうです。しかし当たることはなく駄目だったという夕方帰ってきたのです。

同じ頃近所のお菓子屋さんの前で中年の男性が二三人で話をしていたのを私は見ていたのです。するとその中の一人が三、四センチ位の一万円札の束を持っているのです。

話によると今日、桐生市の競艇場で大穴が出て儲かったと言っているのです。その大穴というのは、その人が言うのに絶対に考えられない1-4だったというのです。私の心の中ではその時親父は何故競艇に行かないで競馬へいったのか残念でなりません。

後になって親父にそのことを聞いてみると、競艇に限らずギャンブルなら何でも良いのかと思ったと言っているのです。私はリアルに競艇場で何槽もの船が走っており、1-4という数字が見えていたのです。この様に夢は時として考えられないようなことを我々に教えようとしているのです。一つだけ紹介しましたが、しかしまだまだ夢に関しては奥深いものがあり、現在分析中のものを含めて、また別の機会に研究しつつあるものを発表したいと考えております。

おわりに

人間界と霊界とは互いにとり合わせであると言われています。霊障を受けやすい人、霊媒体質の人は特にとなりあわせている霊界を敏感に感じていることになるのです。

しかし霊そのものとはかく悪いものの様に取りまわられてしまいがちであるが、一概に悪者扱いできないものです。何故なら霊格が問題となるのではないかと思うのです。

霊格とは字のとおり霊のランクを意味しているのですが、その高い霊格を持ち合わせているということ、また霊格が高められたということは神の世界に通じるものがあるのです。従って霊障を受け、あるいは憑依を受け苦しんでいる人も、考えや心がけを変えることにより潜在意識に働きかけ霊格を高めることが可能といえるのです。「心に太陽を」の言葉ではないが、心に神を持つことが必要であるのです。自分自身に言い聞かせ思うことにより大きく人生が開けていけるのです。

私が霊に敏感であり私自身が知らぬ間に潜在意識が霊界とのコンタクトを取り、不思議な経験させられてしまったと言えるのです。

記した様に子供の頃の出来事は自分自身が無知であったために、霊界とのコンタクトを見過ごしてきた部分も多々あったのですが、今では度重なる霊界からのメッセージを正しく受け取

ることにより、素晴らしい未来が築かれるものと信じてきたのです。

今回登場してきた人物は全て実名の方々です。いくつもの不思議な経験をしていく中で実際に発生した出来事として信じてもらうためにも、本人の許可を得て名前を使わせて頂きました。今後、神から霊界からメッセージが私の元に送られてくるかぎり、世のため、人のためにそして自分自身が幸福な人生を送ることが出来る様コンタクトをとり続けて参りたいと考えております。

平成十年四月

平成二十四年一月 電子書籍 坂下 進一 「守護神 福寿帰命」

プロフィール 坂下進一

幼い頃から、数多い霊的体験や虫の知らせを受け、また霊夢から得るものも多く、少年期の予知夢の当たる確立は高いものがあつた。降臨現象を体験後は、世のため人のために霊能者として働きたいという人達に正しい霊能の知識を伝授し、現在は霊能者の育成の合間に悩める人々の相談にあたっている。

住所 群馬県太田市 坂下進一

電話 〇二七六・三七・二〇八一

H P http://www.page.san-net.ne.jp/s_sakasita/